

令和元年度

藤里町の人口減少やまちづくりに関する

アンケート調査報告書

令和2年3月

藤 里 町

目次

1.	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の方法	1
(3)	調査期間	1
(4)	配布、回収票数	1
(5)	その他	1
2.	回答者の姿	2
(1)	年齢と性別	2
(2)	結婚の有無	3
(3)	世帯構成	4
3.	藤里町への愛着度について	5
(1)	住み続けたいか	5
(2)	藤里町に住んでほしいか	7
(3)	愛着度	8
4.	まちづくりの現状の評価について	9
(1)	普段のおでかけ環境の満足度	9
(2)	人口減少に伴う人手不足	11
(3)	人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて	13
5.	情報の発信について	18
(1)	情報の入手方法	18
(2)	「とじこじ」の認知度、普及度	19
6.	まちづくりや若い世代の町への定着に関する取り組みに対するご意見やご感想	23
	巻末資料 ～調査票～	31

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

町では、平成 27 年度に「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいる。

計画の一層の推進を実現するために、取り組みの効果や評価を把握することを目的として、経年のアンケート調査を実施した。

(2) 調査の方法

藤里町に在住する町民 500 人を無作為で抽出し、郵送配布、郵送回収により実施した。

(3) 調査期間

令和 2 年 2 月 5 日配布 ～ 2 月 21 日回収締め切り

(4) 配布、回収票数

回収票数 233 票（回収率 47%）

(5) その他

回答の構成比は小数第 1 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

2. 回答者の姿

(1) 年齢と性別

年齢は、平成 30 年度調査と比べると 50 代以下の回答が増え、60 代以降の回答が減っている。

性別は同じような傾向で、女性がやや多く 56%を占める。

職業も同じような傾向となっており、無職が 28%、会社員が 26%と多く、合わせて全体の約半数を占める。

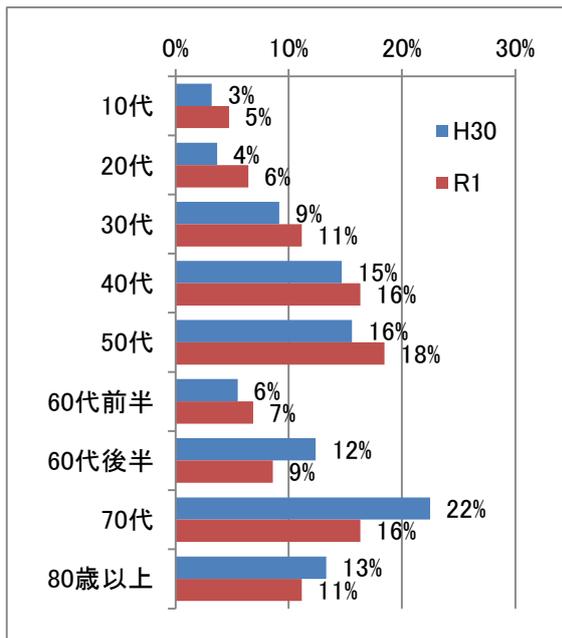


図 年齢

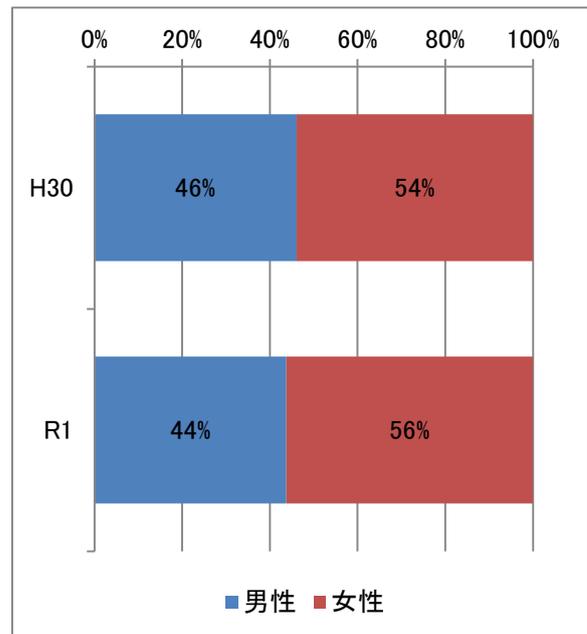


図 性別

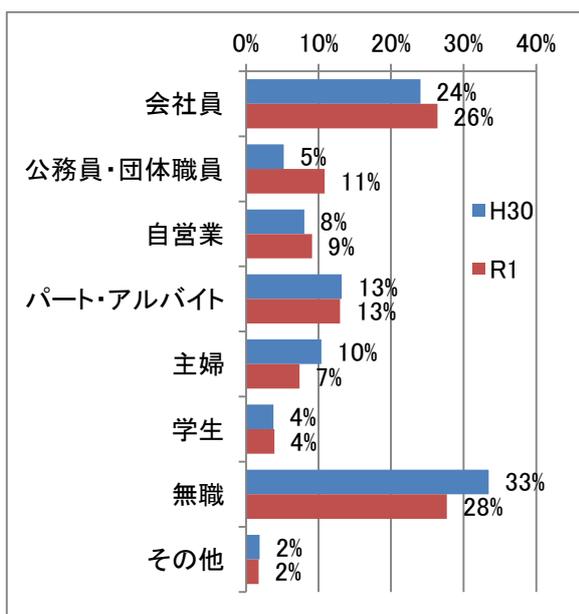


図 職業

(2) 結婚の有無

結婚をしている、もしくは結婚の経験がある割合は、平成30年度は78%、令和元年度調査では79%と大きな変化はない。年代別では、20～40代の婚姻率が上昇している。

男女別にみると、男性の方が結婚率は低い状況は変わらず、男性が72%に対して、女性は85%である。

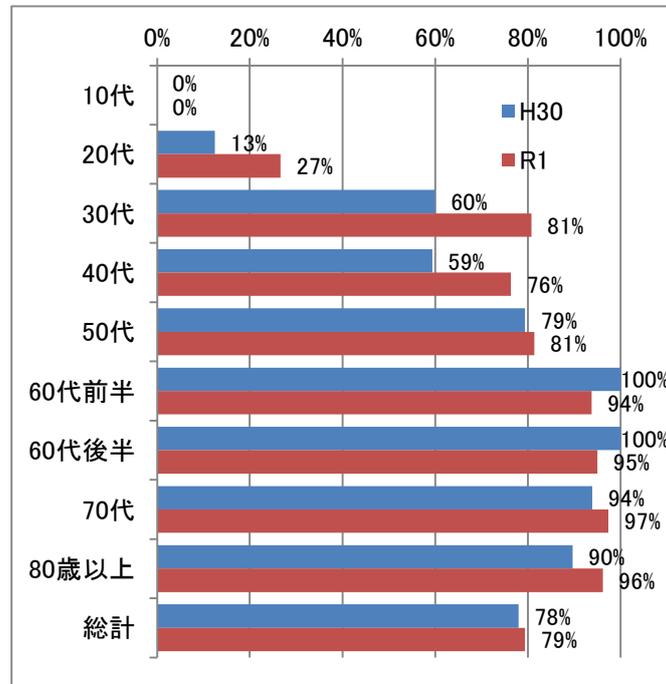


図 婚姻状況

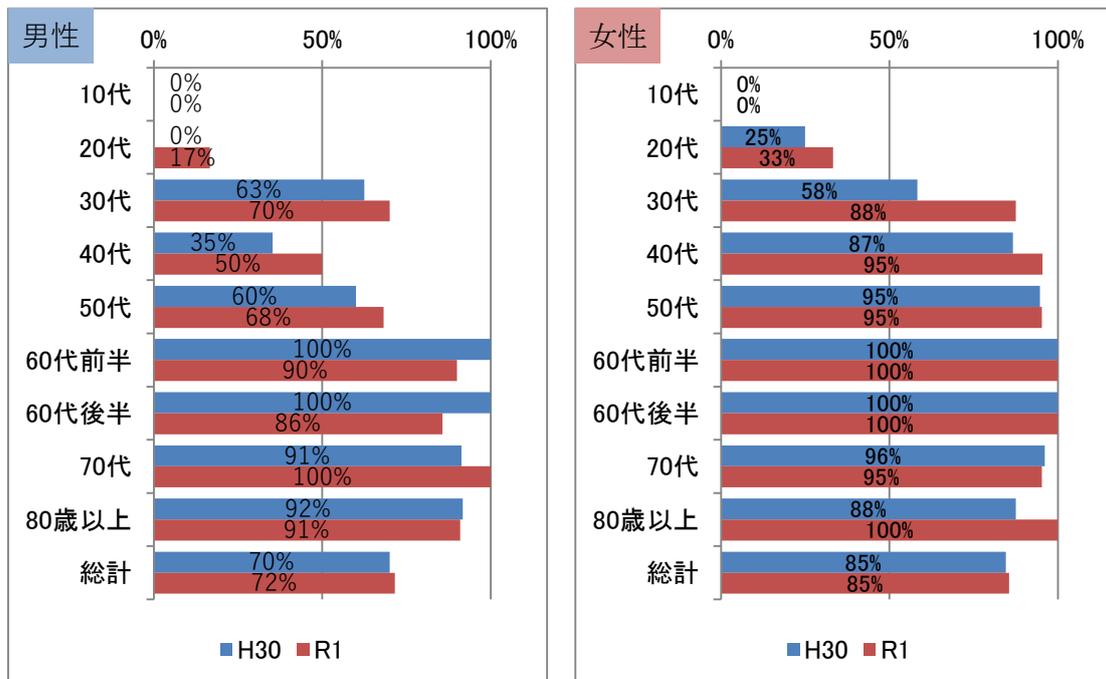


図 男女別の婚姻率

(3) 世帯構成

総計で見ると、2世代世帯が37%を占めて多い。単身世帯は70代が最も多く21%を占める。

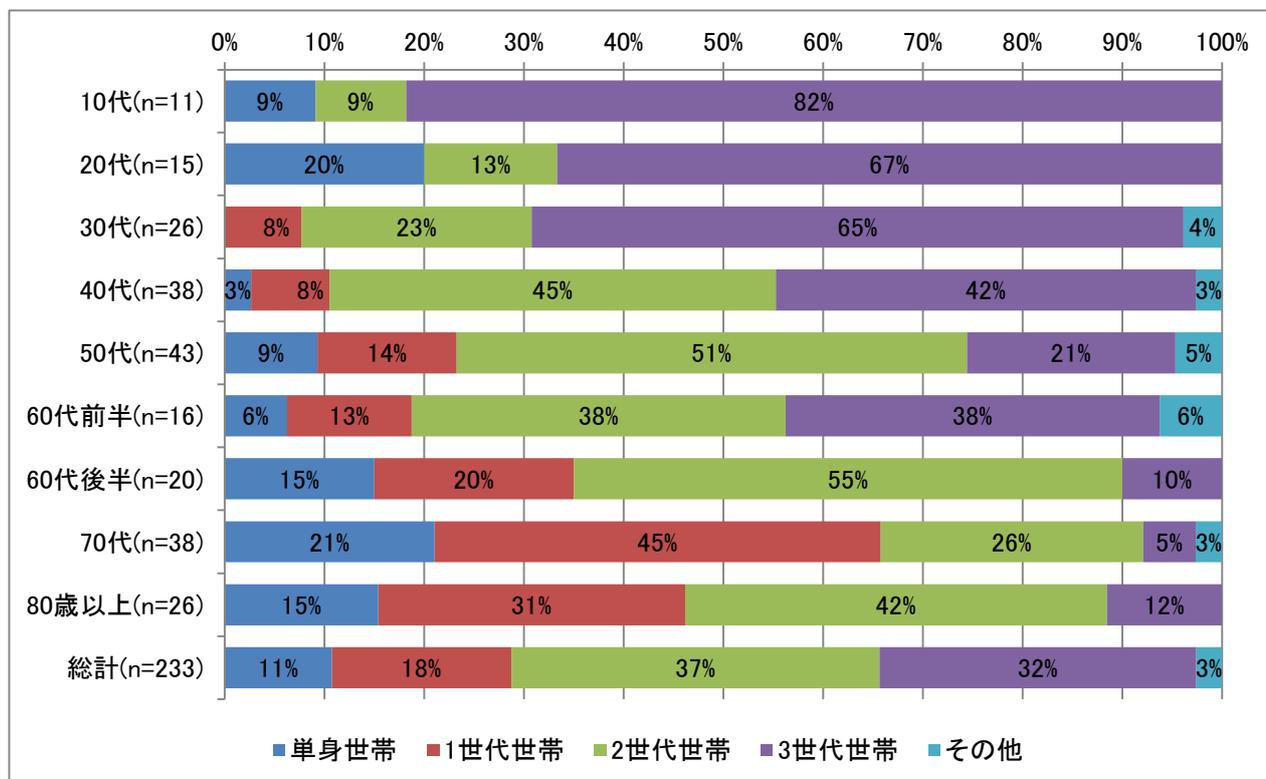


図 同居している世帯構成

3. 藤里町への愛着度について

(1) 住み続けたいか

「このまま町に住み続けたいと思う」割合は、平成 27 年度は 65%、平成 28 年度は 75%まで増えたが、平成 29 年度は 66%、平成 30 年度は 69%、令和元年度は 64%と減少している。

令和元年度の調査では、「進学や就職などで町外に住んでもいずれは藤里町に戻りたいと思う」という割合が 10 代では 36%と前年度の 29%から増え、40 代から 60 代前半で「このままこの町に住み続けたいと思う」という割合が下がった。

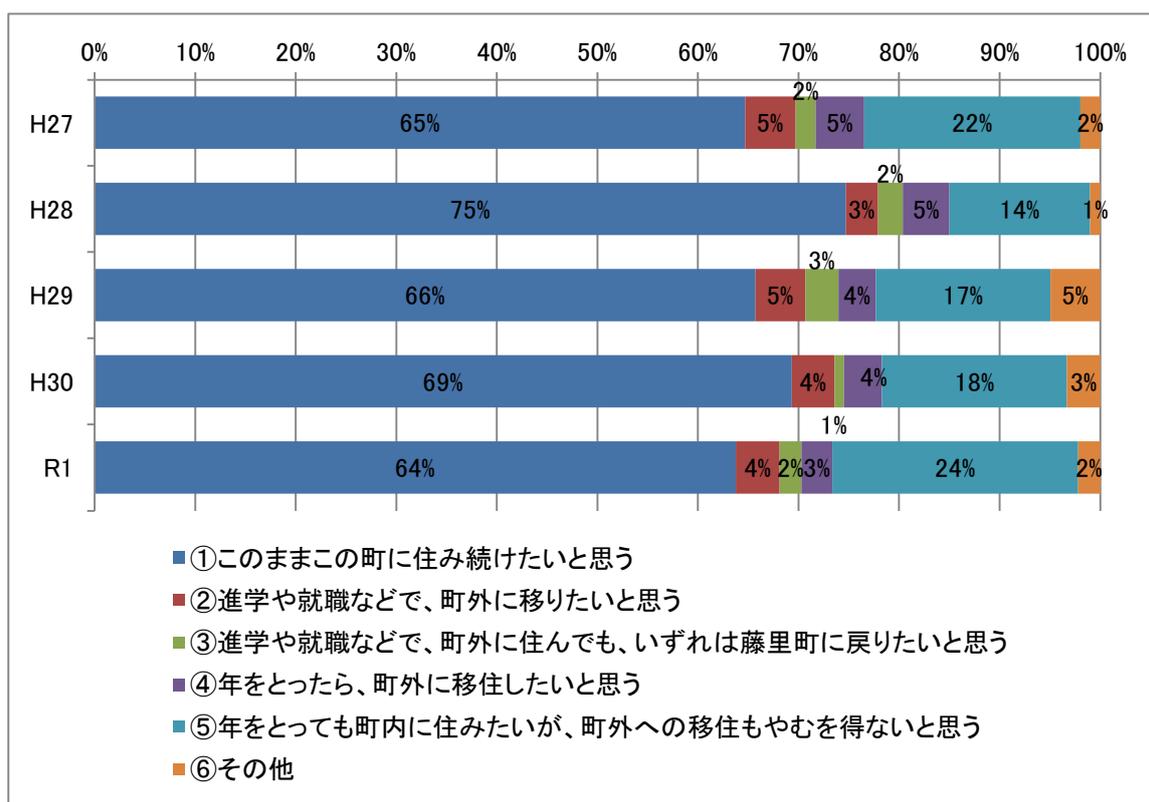


図 藤里町に住み続けたいか

*その他の内容

- ・ なんとも言えない。まだ遠い将来のことは考えられない。(40代)
- ・ わからない。(20代)
- ・ どうしようか迷っている。(50代)
- ・ チャンスがあれば町外に移りたい(70代)
- ・ 子の進路で考える。(40代)
- ・ 特に考えていない。(50代)

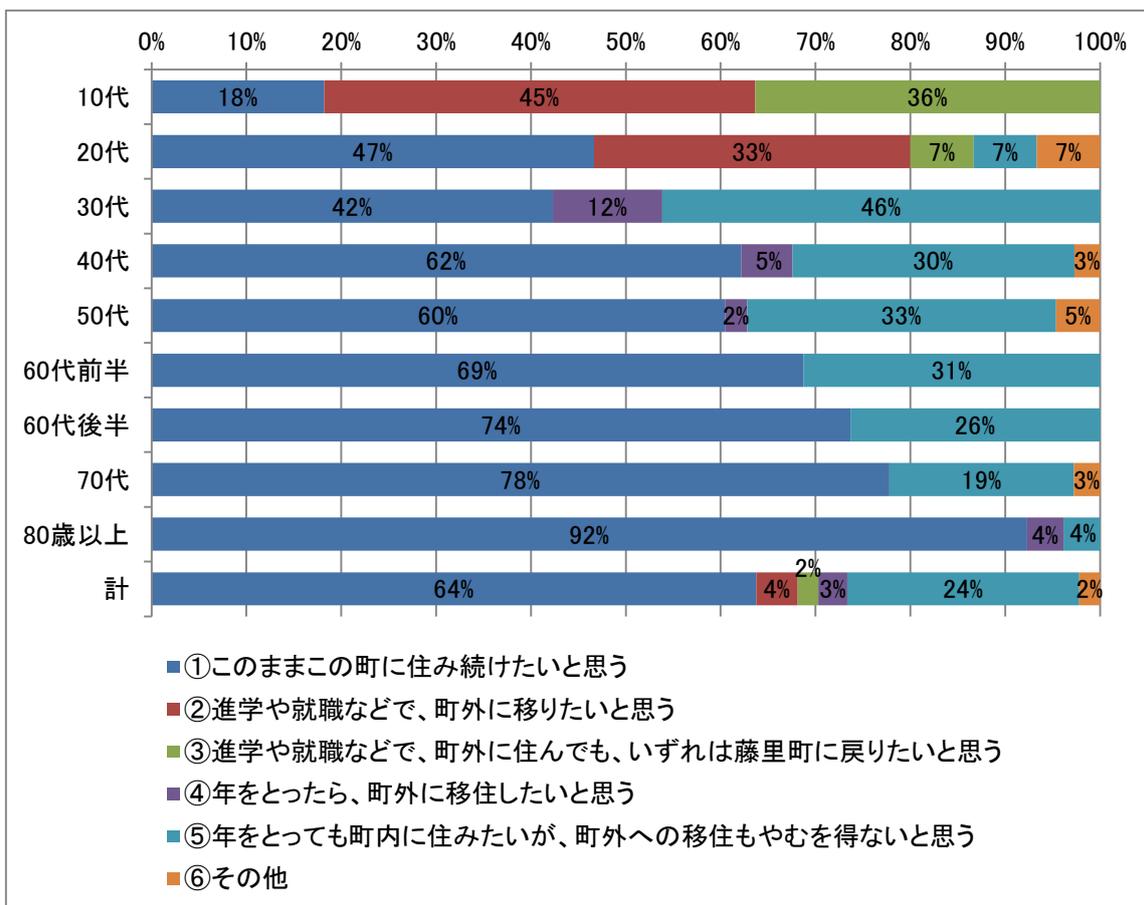


図 このまま住み続けたいか（令和元年）

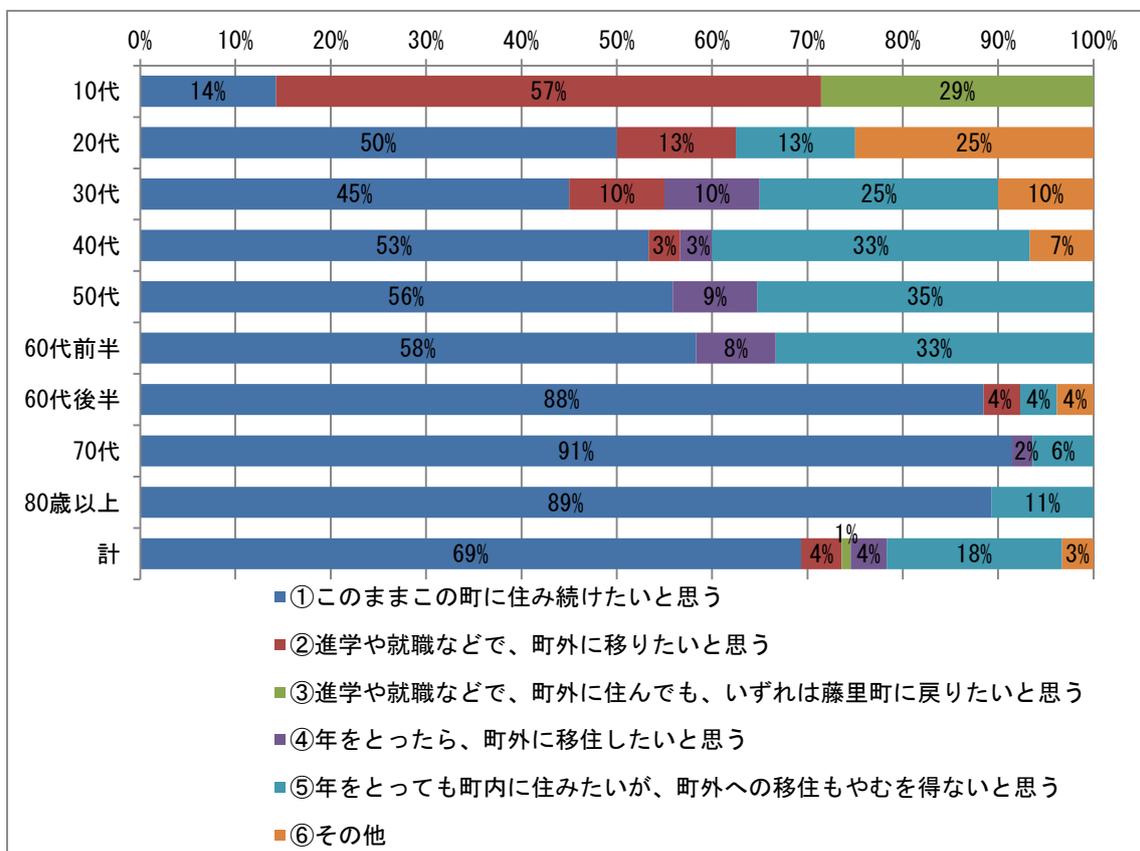


図 このまま住み続けたいか（平成30年）

(2) 藤里町に住んでほしいか

将来、あなたの子どもや知り合いなどに、藤里町に住んでほしいと思うかについては、令和元年度は「住んでもらいたいと思う」割合が減り、「どちらともいえない」割合が増えている。

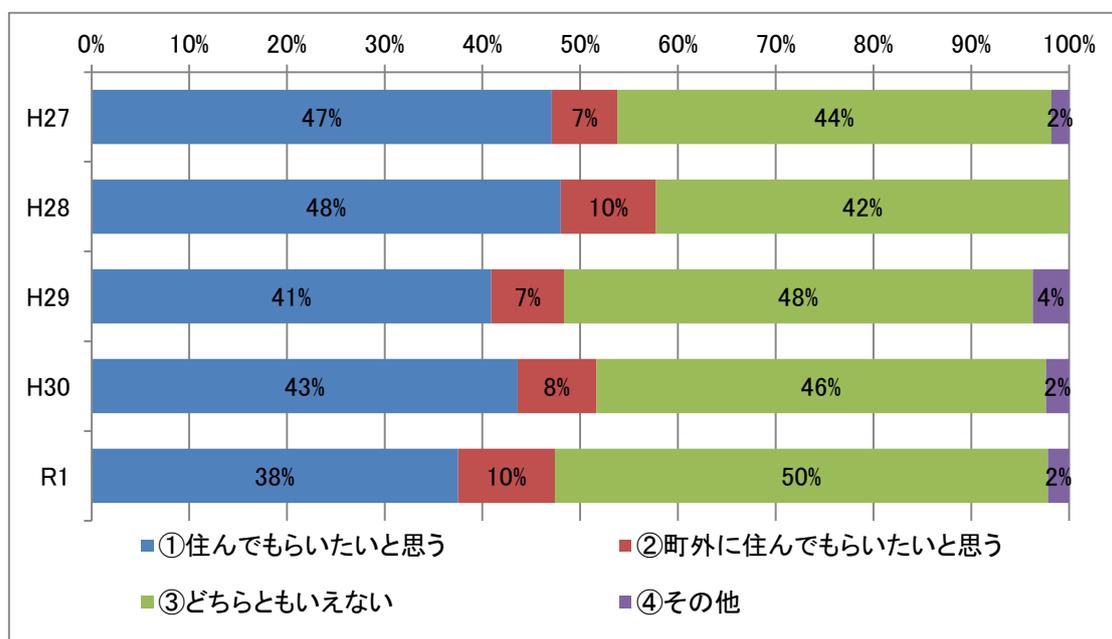


図 藤里町に住んでもらいたいか

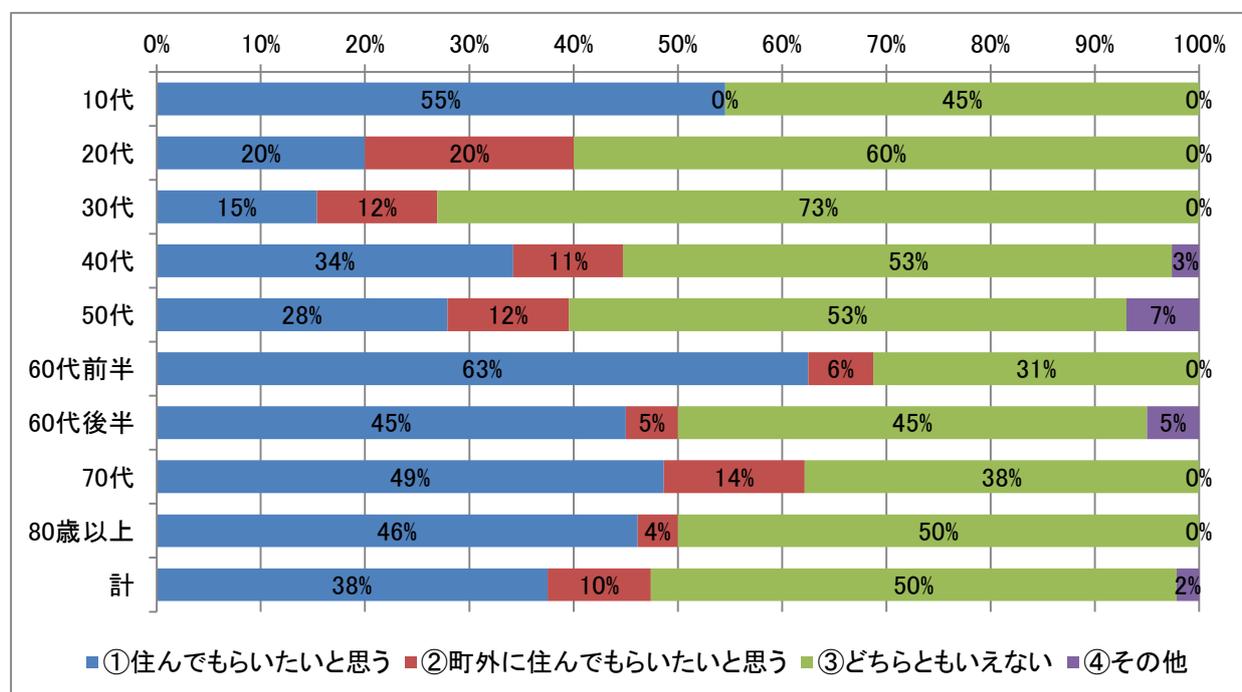


図 藤里町に住んでもらいたいか (年代別)

*その他の内容

- ・ 現に町外に住んでいる。(60代後半)
- ・ わかりません。(40代)
- ・ 本人しだい。(50代)
- ・ 良い職場があれば。(50代)
- ・ 町外に住宅購入。(50代)

(3) 愛着度

藤里町に愛着を感じるかどうかについては、平成 27 年度には「強く感じる」が 41%だったのに対して、平成 28 年度から減少し続けているものの令和元年度は微増している。しかし、「まあまあ感じる」を加えると、いずれも 80%以上と愛着度は高い。中でも 10 代の愛着度「強く感じる」は、全世代の中で一番高く、ふるさとへの愛着醸成の取組みの成果がうかがえる。一方、30 代の愛着度「強く感じる」が著しく低い。

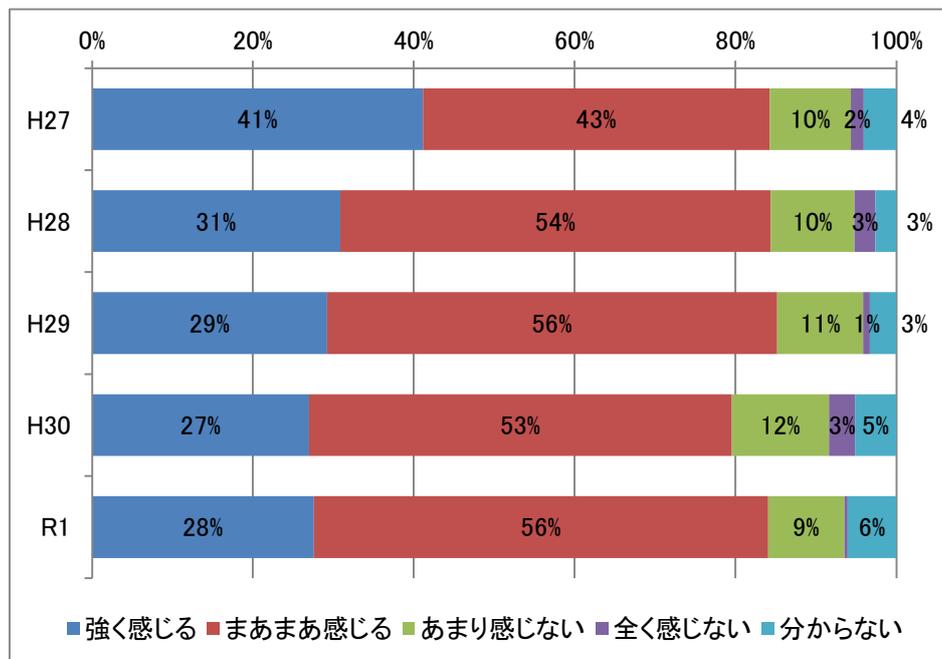


図 愛着度

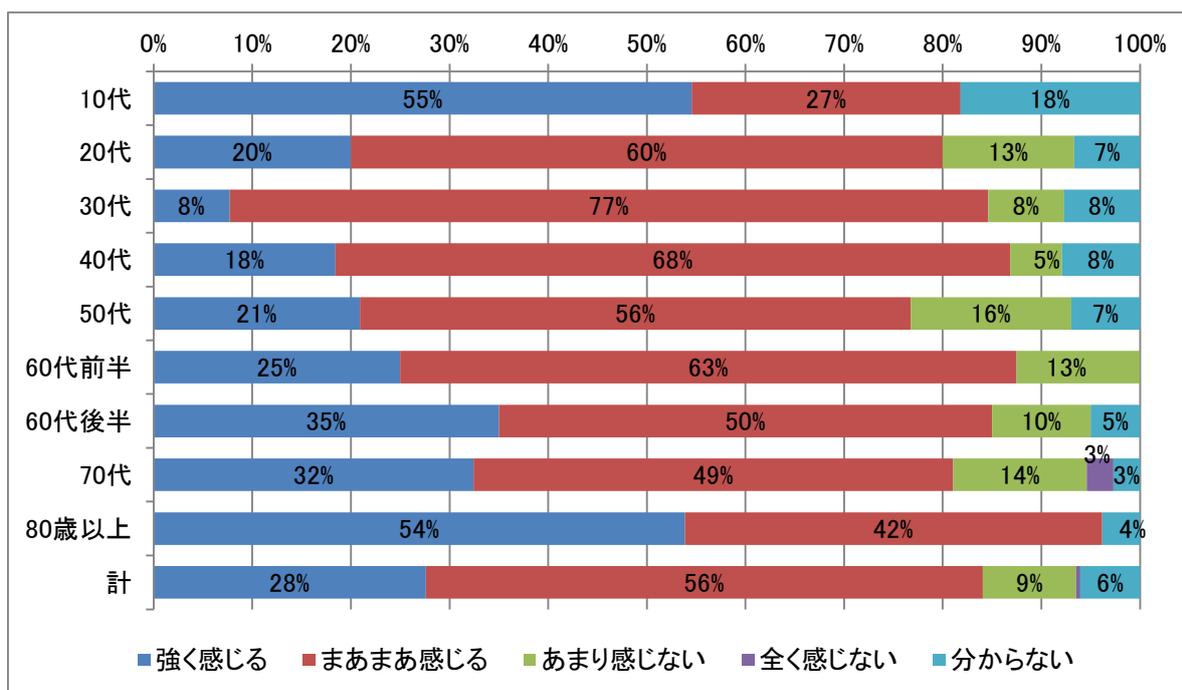


図 愛着度（年代別）

4. まちづくりの現状の評価について

(1) 普段のおでかけ環境の満足度

普段のおでかけ環境に満足しているかについては、平成 27 年度から平成 29 年度まで「満足している」が 26%から 17%に減少していたが、平成 30 年度では 24%、令和元年度では 57%に増加している。平成 27 年度から「やや満足している」が 34%から 23%に減り続けていたが、平成 30 年度では 33%、令和元年度では 30%に増加している。

外出時の移動手段は自家用車が突出して多く 92%、次いでバス・タクシーなどの公共交通機関が 7%となっている。

「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた数値目標は、平成 27 年度現状値が 60%であるが、令和元年度には 80%を達成することを目標としていた。

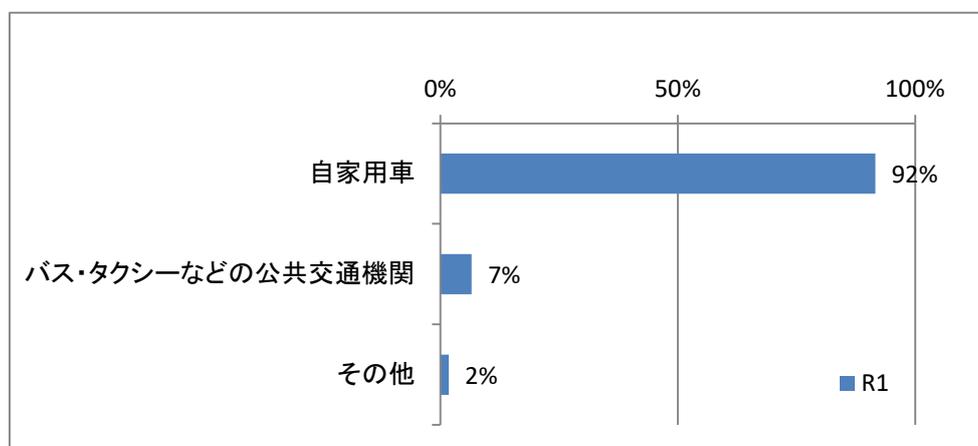


図 外出時の移動手段

*その他の内容

- ・ 子ども（親族）の車
- ・ 知人の車

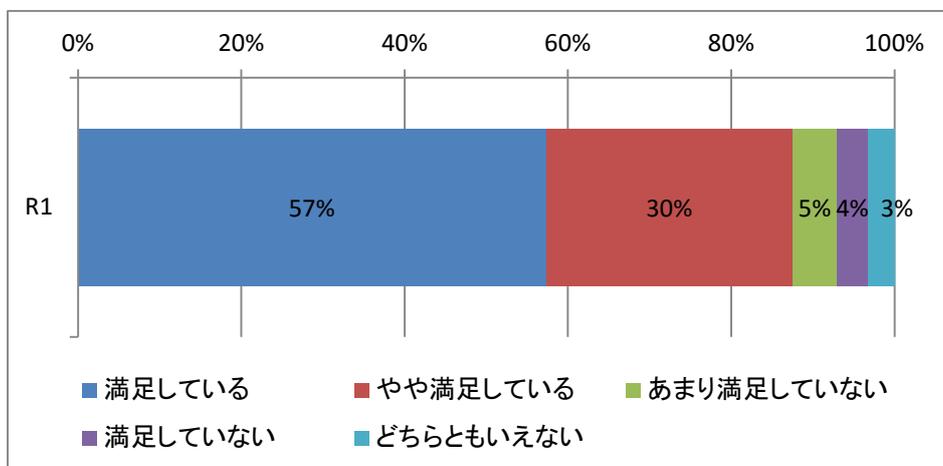


図 おでかけ（移動手段）環境の満足度

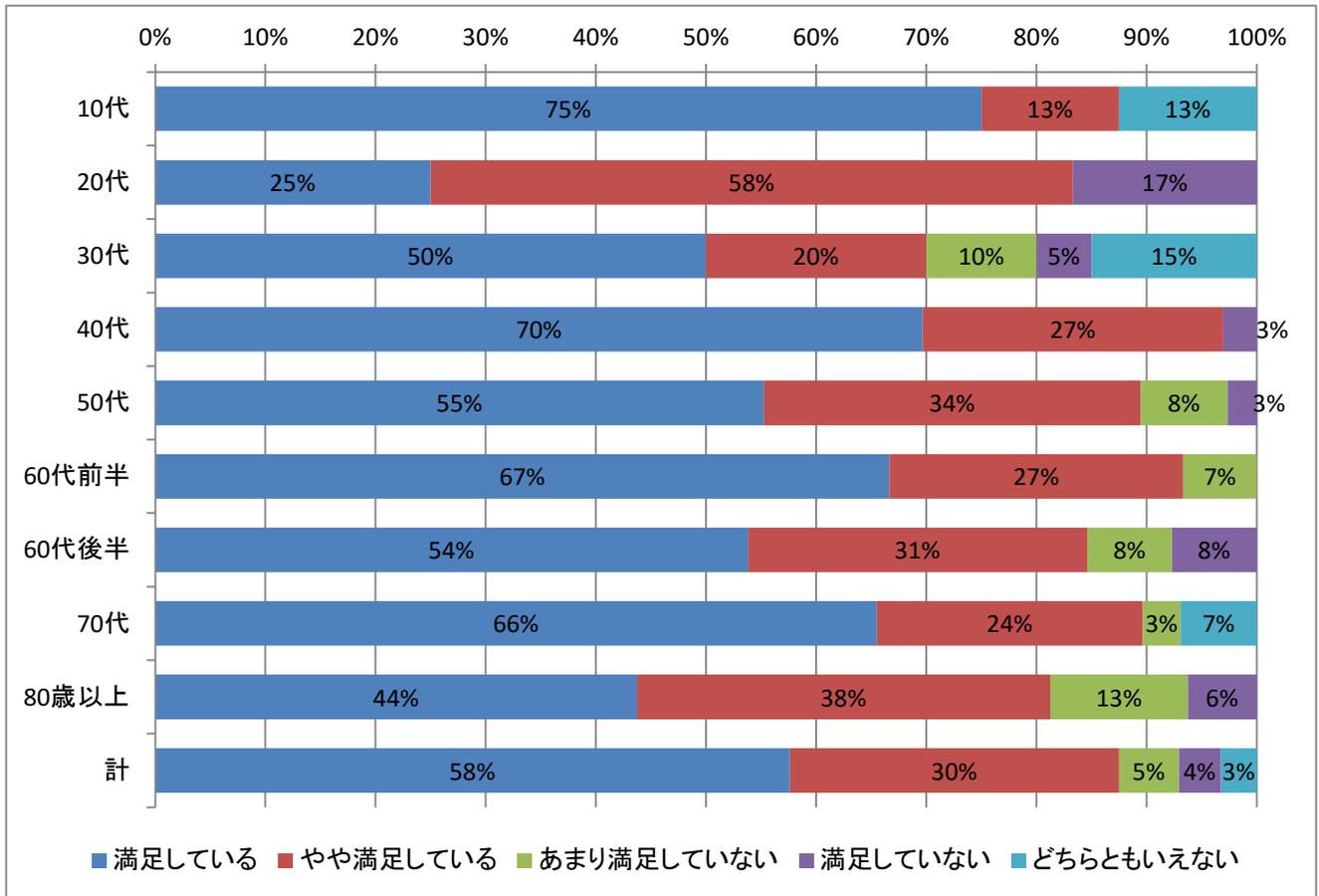


図 おでかけ（移動手段）環境の満足度（年代別）

「あまり満足していない」、「満足していない」、「どちらともいえない」を選んだ方の理由

10代	<ul style="list-style-type: none"> 目的の場所まで時間がかかる。
20～30代	<ul style="list-style-type: none"> 遠い。 藤里にいると車での移動が不可欠。車が乗れなくなった場合、他の交通手段は何を選択したらいいのかわからない。 電車がない。 車は便利ですが、維持費がかかる。車がないと仕事にも行けない。地方は不利だと感じる。 公共交通がもう少しあれば良いが、利用客が見込めず、増やせないのなら自家用車で十分。ガソリン代が高い時、補助が欲しい。 ガソリン代が高い。 今は満足しているが、高齢になり自分で運転できなくなった時、不満を感じると思う。
40～50代	<ul style="list-style-type: none"> 今は車で自由に行動しているが、周り的高齢者を見ていると不便だとよく聞く。いずれ自分もそうなると思うと「満足していない」になってしまう。 公共交通がない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自家用車しか選択肢がない、と言わなければならない状況だから。便利な移動手段があれば良いと思う。 ・ ガソリンが高い。自家用車の維持費が大変。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不便。 ・ 今のところは自分と主人の運転で移動には苦痛を感じないが、自然と変化がくると思います。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人に頼るのが申し訳ない。 ・ 路線バスは土日の午前中8時～11時までないので本当に困る。駒わり君も時間が決まって祭日など断られた。将来能代方面の病院の予約に合わせた運行（集団）を願いたい。 ・ バスの回数が少ない。バス代が高い（能代まで）。

（２）人口減少に伴う人手不足

普段の生活の中で、人手不足を感じるかどうかについては、「強く感じる」、「まあまあ感じる」が増え、全体では半数程度が人手不足を感じている。

どの分野で感じるかについては、「集落の行事を担ってくれる人」が昨年度に引き続き特に多く、「草刈りなどの地域の共同作業」、「高齢者の見守りや日常生活を支援する人」、「何か困ったときに声をかけたら手伝ってくれる人」も比較的に多く昨年度と同じ傾向が見られる。

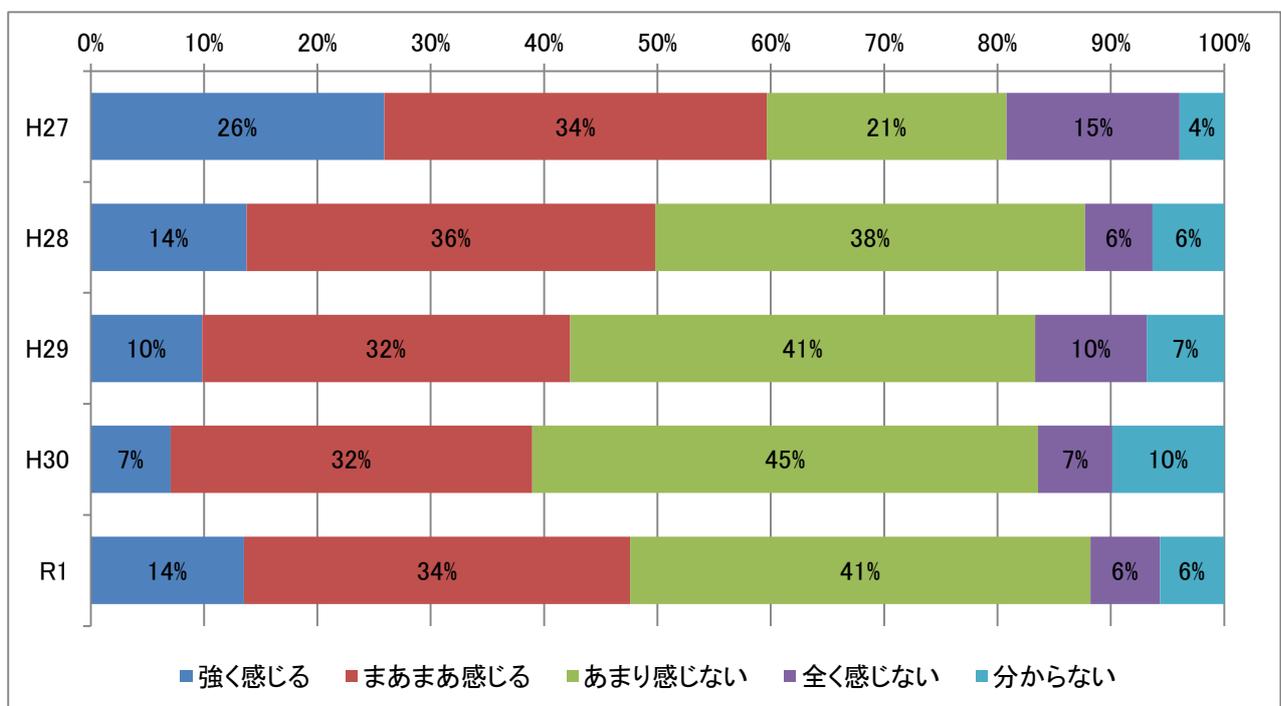


図 人手不足を感じるか

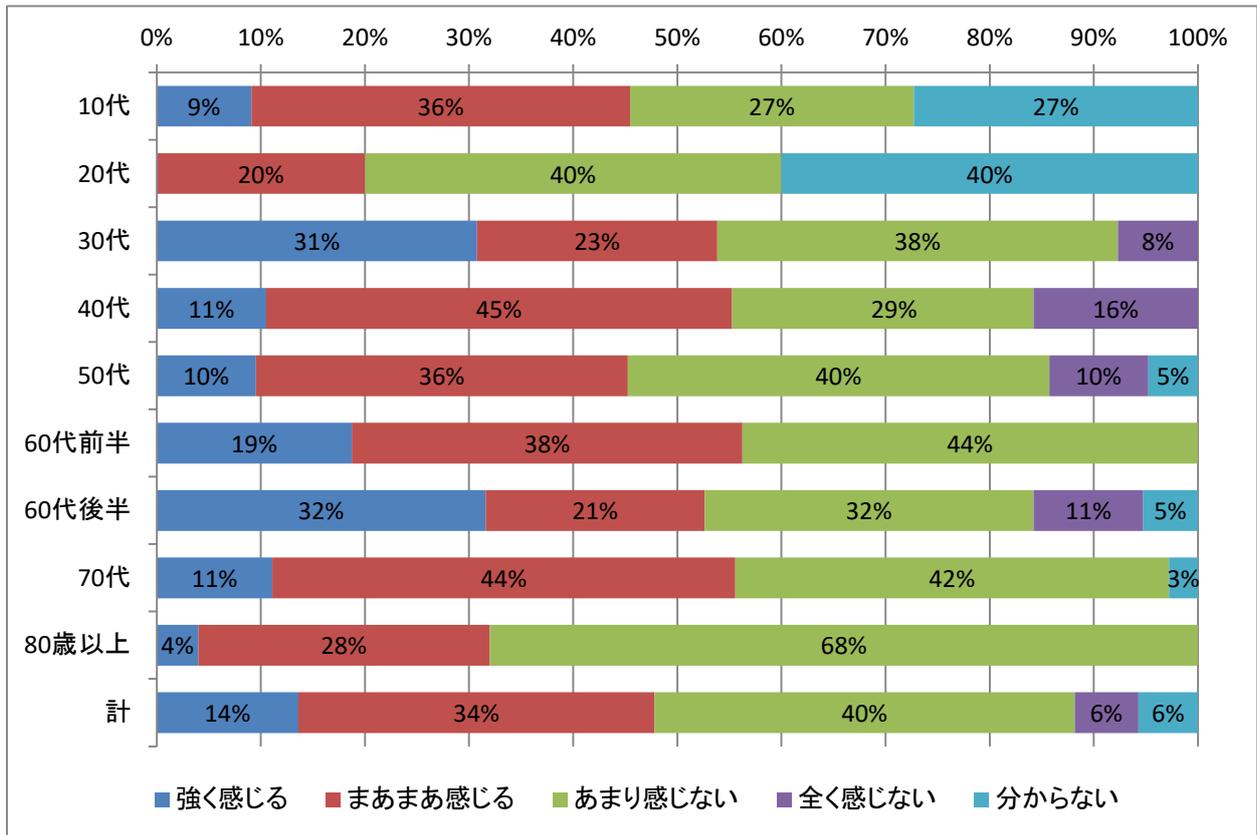


図 人手不足を感じるか（年代別）

〔人手不足を感じる分野〕

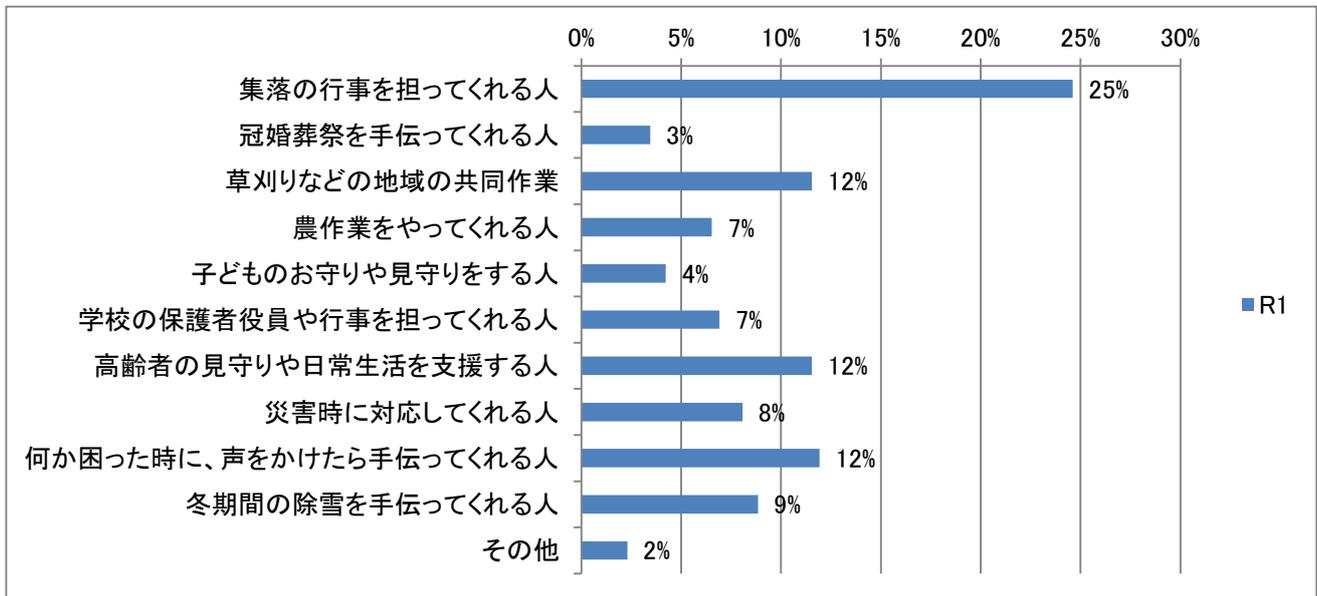


図 人手不足を感じる分野

（その他）

- ・ 自分が病気になった時など家のことまたは自分のことをサポートしてくれる人。（40代）
- ・ 体調の悪い時（運転は無理）病院へ行く場合。（70代）
- ・ 職場でも人手不足である。（50代）
- ・ 仕事柄。（30代）

(3) 人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて

人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思うかについては、平成 28 年度から令和元年度までに大きな違いは見られず、「積極的に受け入れたほうがいい」が 40%以上を占めた。

若い年齢層に「積極的に受け入れたほうがいい」という割合が高い傾向と前向きな意見がみられる。

また、受け入れるために必要なこととしては、仕事や住居のほかに、受け入れ側には受け入れるあたかな気持ちや町民との交流、移住者側には地域の理解などを挙げる声もあった。

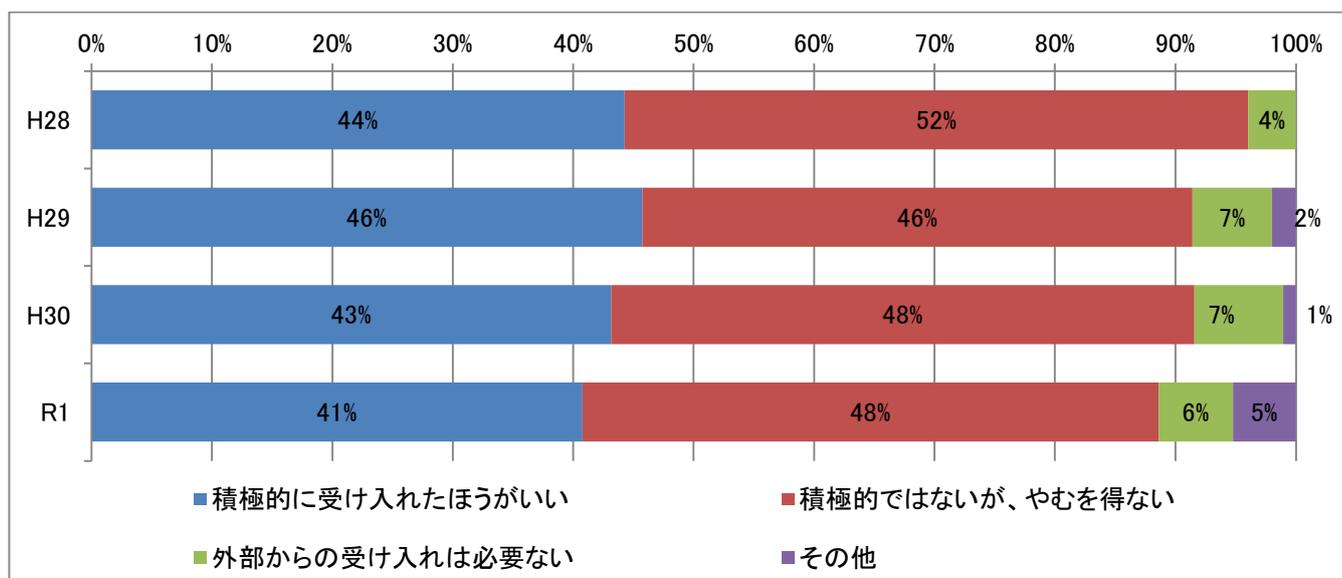


図 外部者の受け入れについて

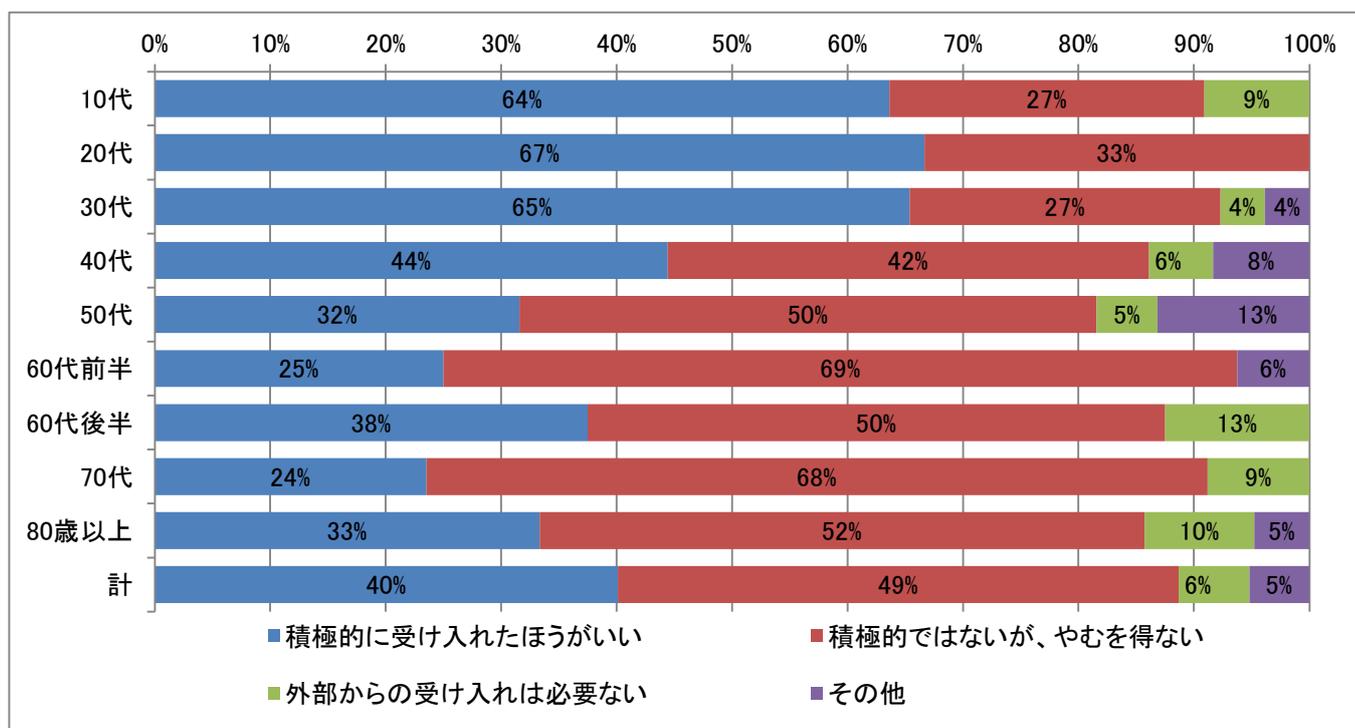


図 外部者の受け入れについて（年代別）

(その他の内容)

- ・ 移住者は受け入れるが、外部からは必要ない。(30代)
- ・ 外部からの担い手はいらない。移住者の受け入れはいい。(40代)
- ・ 無理やり受け入れるというより来たいと思ってくれる人。(40代)
- ・ 仕事柄。(30代)
- ・ 外部に任せてOKか分からない。(60代前半)
- ・ 地元に戻りたい人、残りたい人の受け入れを優先してほしい。(50代)
- ・ 町民助け合いの精神からプラチナバンクがある。その精神は大切。足りない時は町民で助け合う。(70代)
- ・ 外国人の受け入れについては慎重に考えたほうがいい。(40代)
- ・ 役場職員だったら地域の行事や共同作業に。積極性がない。(50代)
- ・ 町の財産(金)を使うなら必要ない。(50代)
- ・ わからない。(50代、80代以上)

[また、外部人材や移住者などを受け入れる際に必要なこと]

10代~30代	<ul style="list-style-type: none">・ 住みやすさ。・ 移住してくれる人にはできるだけ特別扱いをする。家賃などを負担するなど。・ 藤里町についての詳しい情報。・ 病院、勤め先。・ 就職先、住む場所。・ 空き家の活用。・ 働くところ、交流できるところ。・ 住む場所。・ 魅力的なイベント。・ 人材確保等はやはりそれなりに“この町に住みたい、支援したい”というように思ってもらえるような受け入れ体制、工夫等が必要だと思う。・ 町の魅力をアピールすること。・ 宿泊施設の充実さ、あっても遠い。・ 特にありません。どんどん受け入れてくれれば。・ 藤里町の魅力をもっとアピールして、たくさんの人に知ってもらうこと。・ 交通手段があるか、仕事。・ プロトコル。・ 働く場所。・ 仕事。・ 町の人が心を開くこと。・ 仕事、住居。・ 過疎や高齢化が進む町の理解と協力をお願い。・ コミュニケーション。・ 移住者への手厚い支援、一人にならないように声掛けするとか。・ 快適な住まいの提供。
---------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ よそ者扱いせず、誰にでも分け隔てなく接すること。新しい考え方や文化を受け入れる広い心。 ・ きれいな住宅。 ・ 生活環境を整えること。 ・ 既に行っているかもしれませんが「なぜ藤里町がいいのか」と「藤里町のいいところ」を聞いて、その回答を「藤里町の魅力（外部からの見え方）」としてHPなどに載せるのを活発にすること。 ・ 藤里町の魅力や伝統は残していくべきだと思うので、伝えていくこと。 ・ 町の外（子供の遊び場や施設）を使用する際のマナー。 ・ 藤里町のことが好きな人。 ・ 店が少ないので、増やす方向で新しく店を開いてくれる人を探す。 ・ 外部人材はあまりよく思わないけど、移住者はいいと思う。必要なことは移住してなん十年といてくれる人。 ・ 藤里町の良いところを見つけてくれたり、増やしていったらうれしい。
40～50代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者の住まい、車、仕事。 ・ 働く場所、賃金（待遇）。 ・ 働く場、病院、交流の場。 ・ 医療機関。 ・ 住むところ、働くところ（生活の見通しが持てるか）。受け入れる心、分かり合おうとする心。 ・ 近くに雇用してくれる場所があること。子どもがいるなら、他の地域の学校とは違う特色ある学校にすること。 ・ 住むところ、助成金。 ・ 町の補助。 ・ 仕事があること、能力、人柄。 ・ 住宅等のサービス、農業の活性（もっと農業に関する授業や体験を増やしてみてもどうでしょうか）、義務教育学校の方針を確立して、広く知ってもらい子育て世代を多く受け入れられるように。 ・ 住むところが必要と思うので、移住定住促進用地に、アパート、一戸建て住宅の建設を迅速に進めるべきと考える。 ・ 空き家などを利用して、安い家賃などで移住して藤里町で活動してもらおうようにする。 ・ 受け入れた後のフォロー。 ・ 居心地の良さ、働きやすい環境・人間関係。 ・ 良い所ばかり見せない。マイナス面もきちんと伝えることが必要。 ・ 生活レベルを同一にする。年齢と人柄を合わせる。 ・ 住居、方言や生活習慣、除雪などのレクチャー。 ・ 町内の人の協力。 ・ やさしさ。 ・ 住民として温かく受け入れること。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション。 ・ 藤里町を十分理解してもらう。 ・ 地域を理解してもらうこと、祭事、風習など。 ・ 町の魅力をアピール、宣伝すること。 ・ 孤立感、閉塞感を感じさせないよう馴染んでもらう。 ・ 入ってくる人の性格（田舎に合ってるかどうか）や社会適応性はもちろん必要だし、受け入れ側の体制や協力人材なども必要だと思う。 ・ 定住することも視野に入れている人を受け入れてほしい。 ・ アンケートも必要だと思いますが、町職員の方たちもいろんな意見を発信してはどうでしょうか？ ・ 問題行動を起こすことのないような人であれば良い。 ・ 知識や経験豊富な人。雰囲気がよく、町になじめる人。 ・ 中国人による実効支配地にならないように。北海道の二の轍を踏まないように。単純に今働ける人として外国人を入れないでほしい。 ・ 身分がしっかりしている（あまりにも職を変えている人などは心配）、移住者も何かから逃れてきたような方ばかりだと後々トラブルや、保護家庭とかが増えてしまうのでは。 ・ 本当に町のことを考えているのか確認してほしい。 ・ 属性。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人たちの受け入れることに対する信用や優しさ、行政の受け入れる体制と支援、フォロー体制が必要。 ・ 知り合いがいなくてであろう移住者には、親密な付き合いが必要では。 ・ いつでもどこでも声をかけてやること。知らぬふりをしないこと。 ・ 移住者の住む地区の民生委員の積極的なアプローチと近隣住民のアプローチ ・ 町民との交流、町民、移住者の協力体制 ・ お互いの理解する心。何のために来ているのかなあと思ってしまう事もある。 ・ 受け入れる体制づくり、住環境に係る支援、特徴ある教育学校、仕事に係る情報、地域資源活用、活性化はできないか ・ 宿泊施設（空き家など）、移住者への祝い金。地域の空き農地の紹介、牛、羊、ぶどうなどの当面の現金収入の紹介 ・ 移住者への相談・サポートのできる体制を整備してほしい ・ 相談に丁寧に対応すること。窓口の一本化など。 ・ 雇用、住居、生活環境の支援 ・ 安定した仕事があること ・ 町営アパート、事業所の寮 ・ 外部人材は最後まで責任もって ・ 来る方の気持ちでの判断なので、自分では判断できないが、外部の人が移住したいと考えてくれるのはうれしい。 ・ 発想の転換ができる若者を呼ぶ。 ・ 外部の人間と知り合うことはお互いにとっていい勉強になる。特に若い人には。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無職の人はだめでしょう。お金が必要でしょう。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣の違いの理解、住宅、言葉 ・ コミュニケーションを取ると思う ・ 外部の人を受け入れるより町内の人をうまく受け入れるようにしたい ・ 人柄が1番と思うが、移住者が腰を据えて仕事をやってもらえるような体制づくりを整えてやること ・ 先住者とコミュニケーションを大事に、最初の顔合わせが第一です。外部人の考えを優先しすぎると集落の付き合いが失敗すると思います。 ・ 空き家を提供する等経費かけなくても移住できるというメリットを持たせたらどうでしょうか。ただし最低限の自己負担も提示するべきだと思います。 ・ 働く場の確保 ・ 町内で働き生活できる基盤の確立 ・ 就職、住居の斡旋。 ・ 仕事、住宅 ・ 一番は働くところがなければ藤里町出身者のUターンも移住者も無理だと思います。 ・ 住居の確保や、生活に必要な物資等のアドバイス ・ 費用、お金のこと ・ 他の市町をしっかりと確認し、藤里町ならではの助成を考えるべき。移住者などには強く助成をし、定住してもらうように。また、町内の住民に新築、リフォーム、解体には他市町より強く助成を考えるべき。 ・ 藤里に住んでくれたら人口が増える ・ 人柄と信用できる人物か、高齢者に優しくできる人か ・ 外部から移住する気持ちの方に逆に聞きたい。何を求めてこの町に住みたいのか。荒れていく農地を守ることができない町民に代わってまた栄える力になりたい人が来てくれたらそれはうれしい。 ・ 地域住民の生活に迷惑をかけるような人材であってはいけないと思う ・ 移住者については身元がはっきりしている人 ・ 人手不足が1番なので、外部者との付き合い方を大切に、時代の流れの変化に勉強していきたい。 ・ 私は老人でなに協力することができないため ・ 特別なことは思い浮かばない。 ・ 高齢になってしまったので、農業をできなくなり、外部から担い手が必要になりました。

5. 情報の発信について

(1) 情報の入手方法

普段、町のお知らせ・情報はどこから入手しているかについては、「町の広報」と「回覧板」が高い。次いで「防災無線」が49%を占めている。

年齢別にみると、30代以上は複数の手段から情報を入手しているが、10代・20代の入手手段が限られていることがうかがえる。

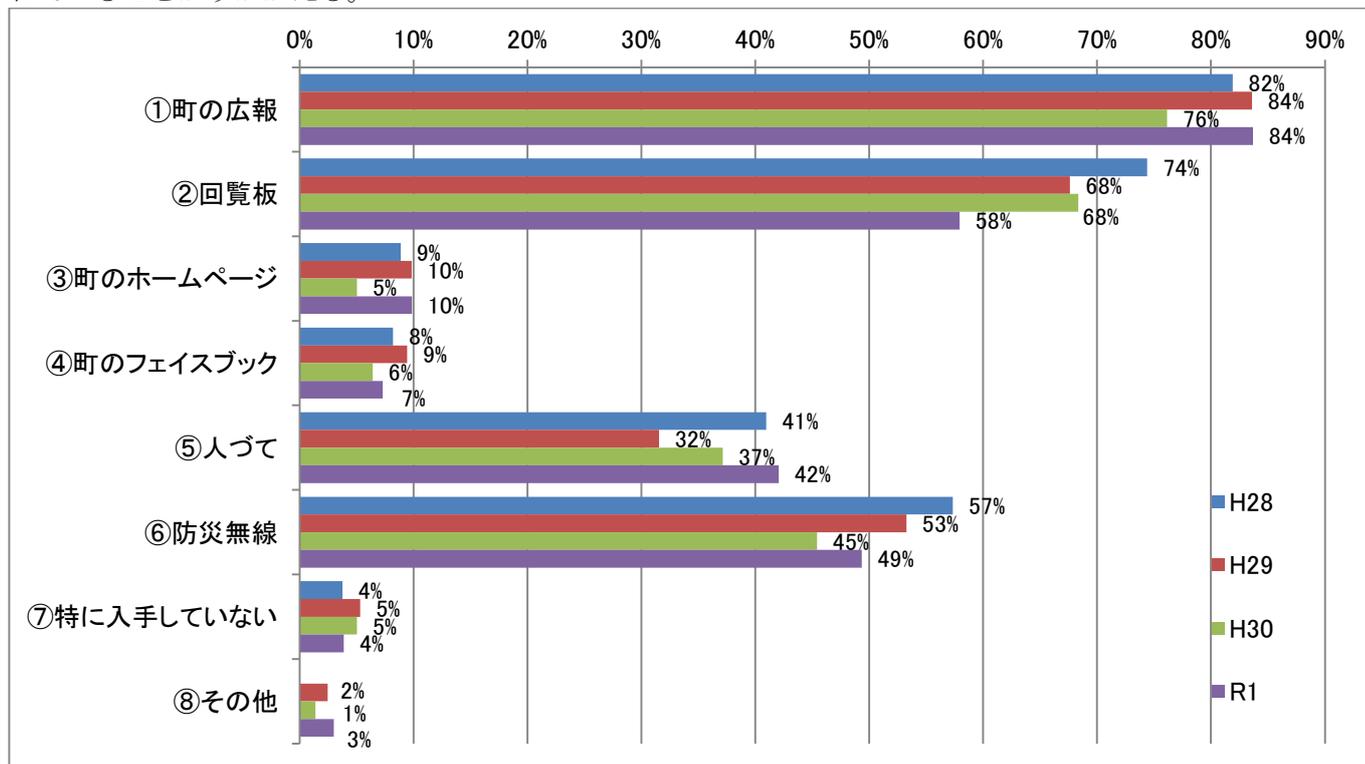


図 情報の入手方法

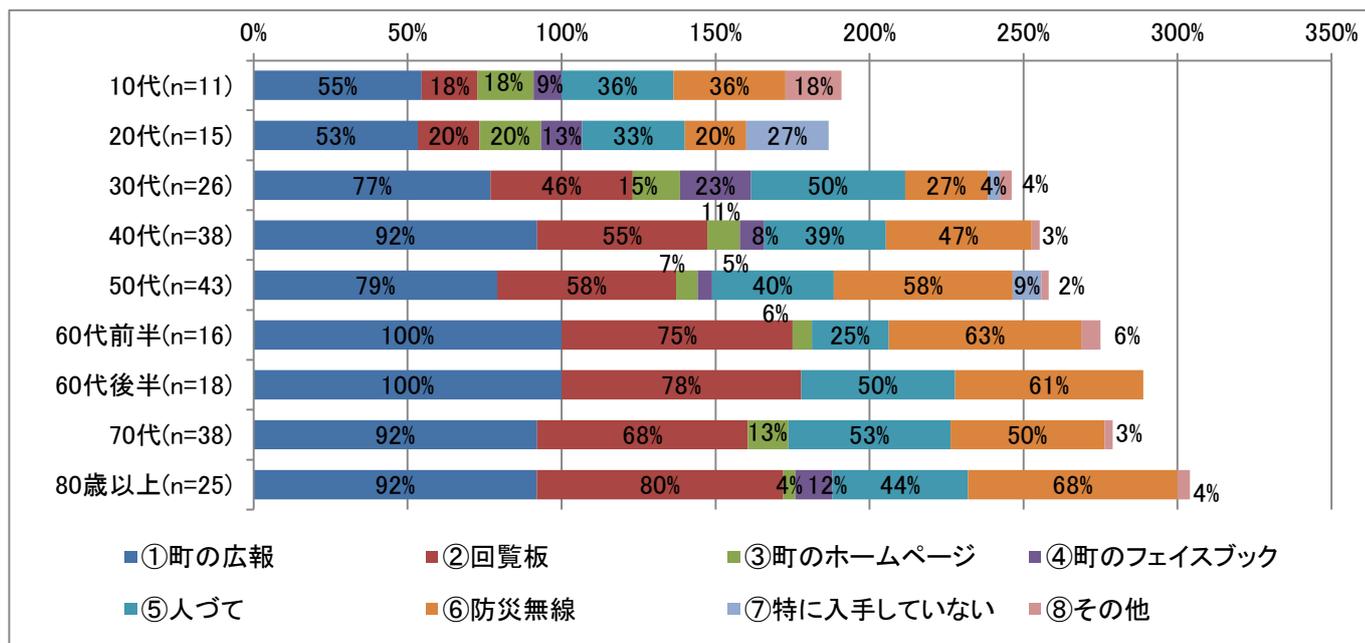


図 情報の入手方法（年代別） * 複数回答のため 100%を超える

(その他)

- ・ とんじこんじ。(10代)
- ・ 新聞。(80代以上)
- ・ 家族。(10代)
- ・ インスタグラム。(30代)
- ・ 行事予定カレンダー。(40代)
- ・ 職場での会話。(70代)
- ・ 防災無線が途中で切れて何のことかわからないことが多くなりました。(80代以上)
- ・ 不必要なものが多すぎ。(60代前半)

(2) 「とじこじ」・「とんじこんじ」の認知度、普及度

地域おこし協力隊員が毎月発行している「とじこじ」と1年に1回発行の雑誌「とんじこんじ」を知っているかについては、平成28年度から令和元年度では認知度が高く85%以上が「知っているし、読んだことがある」と回答している。10代・20代では、知っているものの読んだことがない方が多い。

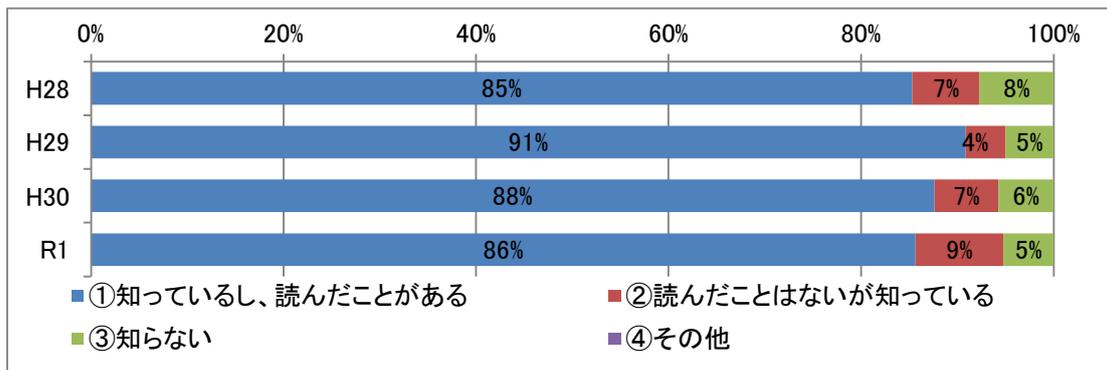


図 「とじこじ」「とんじこんじ」の認知度と普及度

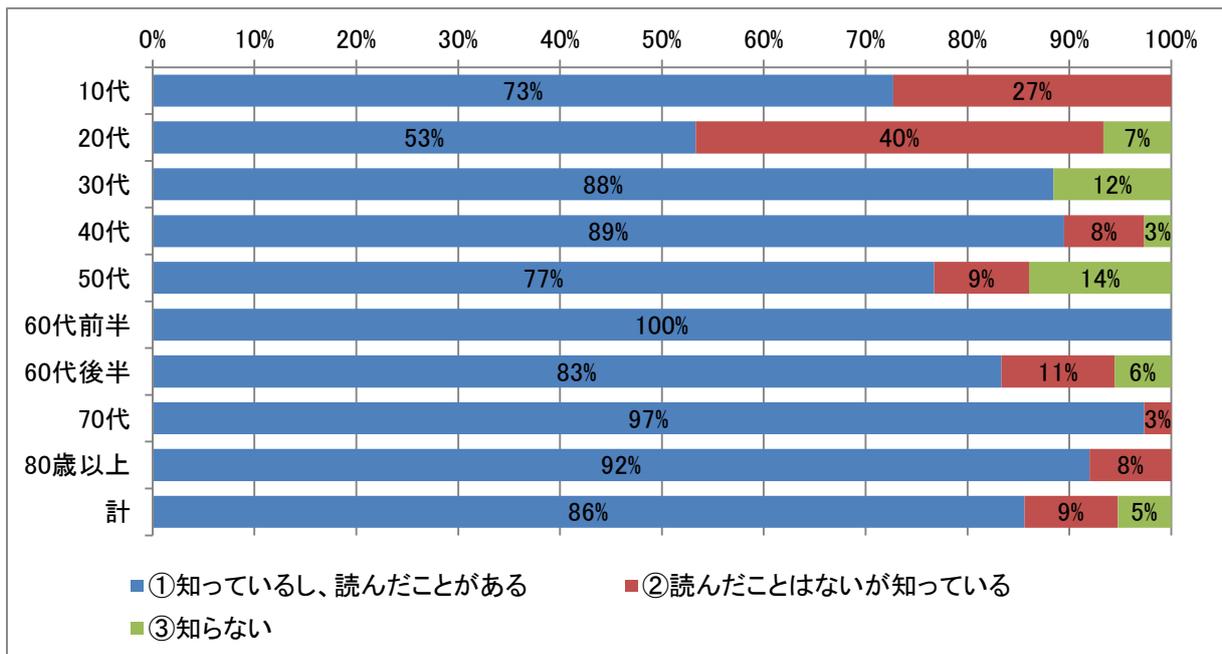


図 「とじこじ」「とんじこんじ」の認知度と普及度(年代別)

[とじこじ、とんじこんじの内容について]

<p>①満足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民の生活特集が、この人知ってる！という感じで読めて新鮮でおもしろいから。(10代) ・ デザインがいいから。(10代) ・ 町のことをより詳しく知れるから。(10代) ・ 感動し、泣いたことがあるくらい。1回ではなく、2回も3回も出してほしい。(30代) ・ 読んでいて楽しいし、町の知らないことを知れるから。(30代) ・ 毎回楽しく読ませてもらってます。(30代) ・ 楽しく見てます。(30代) ・ 協力隊の方々の外部からの目線での記事が新鮮で良い。(40代) ・ 地域色たっぷり面白いから。(40代) ・ 外部の人の視点がおもしろい。(40代) ・ 知らなかった人がいると実感しながら拝見している。(40代) ・ 自分の知らない地区のことまで分かって面白い。(40代) ・ おもしろい。(40代) ・ 楽しみにしている。(40代) ・ 町内に住んでいる自分とは違う視点で書かれていておもしろいと思います。(40代) ・ 町の人たちのことをよく知れる。(40代) ・ 読み物として。(40代) ・ 小さい町だからこそできる事なので、これには力を入れて良いと思う。(40代) ・ 協力隊の方が作っていることもあり、地元とは違う目線でよいと思う。(40代) ・ 内容が面白い。(40代) ・ 町内の人を知ることができる。(50代) ・ 仕事などに追われ、町内の事情にうとい。(50代) ・ いろいろな人達の活動に興味を持てるし楽しい。(50代) ・ 人間(町民)に焦点を当てて発信しているところが面白い。(50代) ・ 知らない人に話を聞くのは大変な事なので楽しい内容でいいと思います。(50代) ・ 40年弱住んでいても、知らないことが多く、この雑誌を通しての発見がすごくある。(60代前半) ・ 町や地区、人の生い立ちを垣間見ることができる。(60代前半) ・ その人の人生史を知ることと、その時代の藤里町の生活史や町の歴史が伝わってくるのが楽しい。(70代) ・ 最近の内容が充実してきて、各段によくなったと思う。(70代) ・ 藤里町いろいろ頑張っている人がいることがわかり楽しみにして読ませていただいております。(70代)
------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで知らなかったこと、わかって感動。(80代以上) ・ さまざまな生き方に感動しました。(80代以上)
②やや満足	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかりやすい。(20代) ・ 読んでいて面白い。(20代) ・ 知っている人が載ると読みたいという気持ちが大きくなる。(30代) ・ 自然についての内容もあると嬉しい。(30代) ・ 読んでいて楽しいので。(30代) ・ 知らない情報があったりする。(40代) ・ 知人が載っていると面白い。(40代) ・ 地域が存在してきたことを後世に残す資料になっている。(40代) ・ もう少しいろんな情報を取り入れてほしい。(40代) ・ 内容はいいが字が細かくて見えづらい。若者向けなのでしょうが、高齢者が多い町ですが見えなくて読めないと思う。(50代) ・ 町民と違う視点があり、良いと感じている。(60代前半) ・ とじこじはページ数が足りないと感じる。(60代前半) ・ 地域のことを色々とも知ることがあって良い広報だと思います。(70代) ・ 町の人についてそろそろネタ切れではないか。視点を変えてみてはどうか。白神山地のふもとの町として知っておくべき知識とかの紹介等。(70代) ・ おもしろい。(70代) ・ 知らなかった人の人生を知ることができる。苦勞のない人はいないと思うが、物のない時代に家族のために歯を食いしばって生きてきた人の話はありがたいです。(70代) ・ 町内のことをなんでも知らせてもらって楽しいです。(70代)
③あまり満足していない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤里町に住んでいる人の声をもっと取り入れてほしい。(10代) ・ おもしろいが広報と同じ程度である感じがする。(30代) ・ 何を伝えたいのかわからない内容がある。(30代) ・ 古いことにこだわり過ぎる。現在とこれからの事も並行しての内容が必要であると思う。(70代)
④満足していない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の満足度かな？(60代前半) ・ 面白くない。(70代)
⑤どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知らないという人もいると思うので、内容も含めもっと発信の仕方を工夫したらいいと思う。(20代) ・ 多くの事を知るが、赤裸々の部分もある。(30代) ・ 読んでいて初めて知ったこと、楽しいことなどありますが、わざわざ外部の人を呼んでお金をかけるものではないと思う。他にもお金の使い道はあると思う。(30代) ・ あまりじっくり読んでいない。(40代) ・ 身近な話題もあればそうでないときもある。(40代) ・ 協力隊と仲良くしている方は好意的、そうでない人は少しだけ冷ややかな感じ です。(50代)

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 印象に残るものがなかった。(50代)・ 一回目の発行の時はとても楽しみでしたが、毎回同じことばかりで少し飽きてきました。(60代後半)・ 人の紹介はいいが、苦勞と自慢が多い?(70代)・ 2019年に初めて知りました。(70代)・ 個人の人生を紹介するだけで提案がない。(80代以上) |
|--|--|

6. まちづくりや若い世代の町への定着に関する取り組みに対するご意見やご感想

10～30代	<ul style="list-style-type: none">・ 自然や空地を使ったインスタ映えスポット（とにかく写真が撮れる場所）・ 私は大館の高校に通っていて、放課後はショッピングモールなどに行って遊んだりしています。その時に“勉強するスペース”が欲しいなと思っても、ショッピングモール内のフリースペースは長時間いると営業妨害になって気を遣ってしまい、なかなか「憩いの場」というのがありません。藤里町はショッピングモールなどはないけれど、かもや堂、開発センターや三世代交流館などそういった憩いの場があり、そこがいいなあと思います。町民だからというものもありますが、利用しやすくて意外に「売りにするポイント」なんじゃないかなと思います。・ 藤里町の産業に興味を持ち若い人たちの定着に繋げていけるよう頑張してほしい。・ 藤里町に店を出店したいと思っている人を大切にしてほしい。私は今県外に住んでいますが、いずれは町に戻りたいと思っています。・ 積極的に外部からの移住を促進する。ex) SNS、YouTubeなどで町のPR、夏季・冬季休暇を利用した移住体験イベント。・ 若い世代の人を出入りさせる。・ 今の若い人たちがいつか地元に戻ってきたときや地元で就職したいと言えるような仕事環境だったり、職場での人付き合いだったり、休日に気軽にリフレッシュできるような場所等が充実していればもっともっと若い人たちが増えるのではないかと思います。なかなか若い世代が少ないと心苦しいこともあると思うので、イベントや交流等なにか楽しいことがたくさんあればいいなあと感じます。子供を育てる親とその子どもがゆっくり遊べる空間も増えればいいなあと思います。・ 少子化対策を具体的に示してほしい。義務教育学校を建てるメリットはあるのか？将来がとても不安です。・ 朝6時のサイレンがうるさすぎます。ボリュームを落としてほしいです。寝不足になります。たまに音が割れていて耳が痛いです。・ ①近5年のこのアンケートの集計結果が知りたい。②このアンケートから、どのような意見等をどのようにしてまちづくりに生かしているのか知りたい。③まちづくりや人口減少に対する取り組みに関して、どのような目標を設定し、そのような取り組みをして、結果がどうで、その結果から反省して改善して、次にまたどのように取り組んでいこうとしているのか知りたい。④企業は人手不足を嘆いている。若者は働く場所がないと言っている。この矛盾というかズレのようなものはなんなのかいつも考えている。・ 雇用創出が必要だと考える。外国人労働者の受け入れを推進し、外国語の習得にも繋がるよう win-win の関係をいかなることでも考えるべきだと思う。・ 移住にもっと力を入れたほうがいいのかと思う。藤里町でなにかブランドをつくり、そこで働ける仕事を増やせばいいと思う。（農業を教え、若者に農業をしてもらうとか）
--------	---

- ・ 働く場所がないと若い人は定住したくてもできません。
- ・ 若いうちはいいが、老後住むのは大変だと思う。医療機関や移動手段など。
- ・ 働ける場所、コンビニかもう少し遅くまで開いている店。
- ・ 学校でも藤里町の魅力は学習している様子で、子供たちからも話を聞くことは多いです。しかし、今の現状とのギャップがあるのではないかと感じます。魅力だけを学習しても、現状は高齢化率やその他問題が多く、現実を見たときに外に出たいと思う子供も多いのでは...と感じます。良いことだけでなく、現状も知り、藤里町のために何とかしたい、と思う気持ちを持った若い人を育てていくことが大切だと思います。
- ・ 子供からお年寄りまで、各世代向けのイベント、町の行事は豊富で外に出て人とふれあう機会は十分にあると思う。子供の医療負担も助かります。仕事探しも選ばなければなんでもあるし、情報発信をもう少しすればよいと思う。コミュニティハウスとかかもや堂に（人の集まる所）に置いておくとか。まちづくりには関係ないかもしれませんが、町民の特に高齢者が閉鎖的な所が嫌です。外を歩いていて、「見ない顔だな、おめえどこのだ？」と話しかけられた時、初対面でこんな失礼な話しかけ方があるのかととても驚きました。町外から来る人は自分の隣にいる人がどこから来た人で、何をしているかなど、ほとんど気にしません。せっかく住み慣れてきたのに、毎回初対面の人にそういうことを根掘り葉掘り聞かれるのはうんざりです。人の悪いうわさ話も堂々とする人もいて、そういう所を直せば外部からの人も来るのではないのでしょうか？移住者向けには良い所しか見せていないのではないですか？近所との関係が濃いことにはいろんな面で助かりますが、これさえなければ住みやすいかと思いません。
- ・ 若い世代中心にイベントをやったりと若い世代の発信力に感激しています。町が活性化しているのを感じるので、これからも色々なことに色々な人が関わってほしいと思います。住んでいて楽しいなあと思えるようになってきました。
- ・ 働く場所を増やす。住む場所を増やす（アパートを建てる）子育てに対してのサポートをもっと手厚くしてほしい。専門家を増やす、子供の遊び場を増やしてほしい。このようなアンケートをやっても、町長はしっかりと見ているのか？町長、教育長など町のトップがしっかりと見ていないと意味がない。今までやってきたアンケートは意味があるのか？まったく意味がないと思う。もっと今以上に町民の意見をしっかり聞くべくだ!!今回のアンケートについての意見（町長）を求める。
- ・ 今の時代はネットが普及してどこにいても欲しいものが手に入りますが、その場所にしかない自然や風景、人のあたたかや空気感を感じるにはそこに行って体験することでしか得られません。“ない”ということが魅力になることもあるので、全てを新しくするのではなく、今あるものを今の時代に合った方法で伝えていったらいいのではないかと思います。人口が減っていることをプラスにとらえる事柄があればそれに興味を持ってくれる人がいるのではと考えます。
- ・ 素波里の遊具はとてもいいが、行くとなると車でいかないといけないとなると、遠いし休みじゃないと行けないので、十分活用できていないと思います。町中にあればいいなと思います。どこの町も市も町中やスーパーの近くにあると思います。義務

	<p>教育学校に変わったら、すぐ横に学童を設置すると便利だと思う。そして上級生でも学童を使用して下級生を世話できる環境を作るのもいいなと思います。今は高校生への交通費で町から出ているが、二ツ井駅まで車で行けないという人もいます。駅まで電車で合わせてバスが出るとかあれば、学校に通うのも便利になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真が魅力的でおもしろい。内容がわかりやすい。
40～50代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤里町は閉鎖的なところがあり、外部の人が入ってくるとマイナスで見る目が多少なりもある所が残念なところである。どんどん少子化が進み、町で育った子供たちも進学すると就職先がなく、戻ってくることが難しい。せっかく小中学校で町の良い所にふれあう授業や行事がたくさんあるのに、戻ってきたくても戻ってこれないというのが実情である。アルビオンのような優良企業や大きな工場、また誘致が必要。協力隊が縁あって藤里町に来てくれて、いろいろなことを発信して頑張ってくれているのに、任期が終わってそのまま移住につながるのが難しい。やはり、町に移住してもらうためには、何かメリットがなければだめだと思う。思い切ったことが必要だと思う。（土地無償提供とか、税を何年か軽減とか）あと、縁の下の力持ちタイプの人材は多いと思うので、その人たちをまとめる人材育成が必要だと思う。出る杭は打たれるのが藤里の残念な所なので、みんなで協力できる町づくりが理想である。 ・ 定住者を増やしたいので、定住して生活できる賃金を得られる職を継続的に確保しておかなければいけない。企業の誘致に取り組んでほしい。町外への流出を止めるためにも。 ・ 週末にテーマ（今、流行していることややりたいけれどどんなことをすればいいの？など）を決めて、情報交換の場や勉強会を開く。 ・ 町外に職場を求めなくても町内でも働ける場所があるといい。民間の求職は限られているし、町職員とかは定年まで働ける。 ・ 残念なことに藤里町には将来、結婚・家・子育てする為に必要な収入を得る職業に就くのが難しく、2人の子供は1人は県外就職が決まり、もう1人も県外での就活中です。家の周りを見ても、65歳以上の家庭で、町内会では9件中子供は1人しかいません。安定した働く場はなければ子供に帰ってきてほしいとは言えなかったもので、企業の誘致に力を入れてほしいです。 ・ 良く町外の方からかもや堂の行き方を聞かれるが、町で発行している地図がおおざっぱでわかりづらく説明に困る。せっかくイベントが多いのだから、そこも改善して頂きたい。 ・ 地域の実情や求めることと、取り組みがズレている。 ・ 藤里町に来ないとできない事やお店があるといい。常駐してくれるお医者様（常駐ができないならいらない）お医者様はいなくても、薬局は欲しい。町外に診察で行っても薬を待っている時間があったくない。町外の人にかわりに薬を出してもらっても藤里で受け取ることができる。 ・ 移動販売 ・ まちづくりに関して、やってもらおう...という受け身ではなくやってみよう、何かできるかなという参加する気持ちが大切だなと思います。 ・ 小さい町なのにいろんな取り組みをしていて、藤里って凄いよね!!と他町村の方

から声をかけられることが多いのが誇りです。

- ・ 働く場がないと定着は難しい。若い人たちが積極的に参加できる事を絞って力を入れる（町職員）何に関しても中途半端なことが多いと思う。他の町村に負けないこと一つでいいので、町民がひとつになって取り組むことを目指す。
- ・ 息子は県外の大学に進学しています。そのまま県外で就職したとしても、いつでも帰ってこられるように迎え入れられるように、環境をしっかりと整備していきたい。
- ・ 役場を中心としたコンパクトシティになれるとよい。（いとく、学校、病院、銀行、床屋 etc）白神山地やゆとりあをもっと上手に活用するとよい。義務教育学校に特色を持たせるとよい。（英語、音楽、体育、ex 神明社幼稚園等）
- ・ 先日講演会が実施されましたが、義務教育学校の教育方針のひとつに地域活性化のための「ふるさと学」があり、児童生徒たちが自ら考え、地域貢献につながる提案をしていくとありました。今後この活動がどう藤里町を変えていくか、今から大変楽しみにしているところであります。学校近郊でも街中でも児童館のような施設を設け、学校帰りの子供たちもご近所の退職をして日中または夕方時間に余裕のある年配の方たちと共有できる場所があれば一緒に楽しめるのでは？TV 観れるスペース、本を読むスペース、宿題をするスペース（例：高学年が低学年を教える）、ゴロゴロできるスペース、体を動かせるスペースなど様々なことができそうな所があると面白いのでは…
- ・ 町の事業、活動は良くされていると感じます。どこの町・市でも人口は減少しており藤里町に限ったことではありません。情報はたくさんあるが、仕事・物がなく選択しが少なく将来を夢見ることができない、それでも子供たちに藤里町に戻れとは言えない、無い物ねだりではなく、有る物、人を大事にして継続してほしいと思います。ただ、防災無線による広報は多過ぎる。刊行物でいいのか広報にするのかわずらわしく感じ、朝のチャイム（音楽）も長い。
- ・ 「藤里里親プロジェクト」町中で里親になる。協力隊とか役場の人とか一部の人のだけがなんとか頑張るのではなく、町民みんなでがんばるプロジェクト。他の大人を外から連れてくるより、長期的に見れば町のためになる。小中学校の存続。町行事の盛況。年 10 組目標で団体で取り込むことで不安感減、意識共有、行政支援をまとめて受けられる。その後、町民になることを強はず、淡々と 10 組ずつ目標で受け入れる。欲張らない。が、いずれはいいことが…。まだどこでもやっていないプロジェクト。先を越される前に!! 気づかれる前に!! 「子は国の宝」藤里町が宝物であふれるように!!!
- ・ マイタケセンターできちんとマイタケを作れる人は 1 人しかいないと聞いていますが、特産品としてこの先も大丈夫か心配です。若い人にきちんと研修を受けさせ、マイタケ課を作って役場職員として採用してずっと異動せずに責任を持ってやらせたらどうか。
- ・ 新聞などに藤里町がよく取り上げられて、町外の方からすごく盛り上がっているといわれたことがあるので、若い方には引き続き頑張っていただきたい。人口 3,000 人あまりの町にできることは、人口を増やす→職場を増やす以外考えられないが、何か人々が寄ってくることはなんだろうか、ないものを急にどうするのではなく、自然

	<p>を引き続き売りにしてもいいのではないかと？じゃらんが大イチョウが載っていたので、見に行ってみました。初めて見ました。感動しました。大野岱の羊も見に行きました。かわいい牧場で感動しました。いい所はいっぱいある。アイデアはありませんが、SNSで発信することぐらいはできます。Facebookは恥ずかしいので、インスタぐらいで。今年は町民スキー場がオープンできなくて残念です。少し楽しみにしていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や社協を優遇しすぎている感じがする。子育て世代にもっと補助をしてお金の負担を減らし安心して暮らせるまちづくりが必要と思う。また、この町には働く場所が少なく、町外に通う人が多い。今は自動車産業等部品工場で人手不足な状況と聞くので、企業誘致のための部署等を設けてアンテナを高くして積極的な誘致をするべきと考える。道路交通網も整備されてきているので、立地条件はそんなに悪くないと思う。工場進出用の工業団地整備を考えてはどうか。働く場所があれば人口流出を減らすことができると思う。 ・ 町のホームページにUターン希望者のための県北地区の求人情報を掲載し、町でサポートしてあげる。お見合いをサポートする仲人がいればいい（街コン、合コンでは結婚まで発展していかない？） ・ 旅行客を藤里町に宿泊できる体制づくり。藤里町に大学をつくる。 ・ 無理な話かもしれませんが、バス（コミュニティバスの？）なもので町外に出る。バス等の交通機関の充実。ますます高齢化が進むと思うので!! ・ 仕事ができる環境・企業の誘致など、とにかく仕事がなければ町外に出るしかない。学業のために町を離れたとしても戻って来れる環境ではないのが残念。子供もいないのに藤里に未来はあるのか？ ・ 働く場、子育てを安心してできる環境が不可欠だと思う。まずは生計を立てるにはどうしたらいいのか。よくわからないが...世界遺産、温泉、自然、農業、おいしい食材、せっかくの宝物を活かしていく方策を考えていきたい。うまくつないで。よいものを外部へ知らせていくPR方法や観光に結び付けていくことを考えていけば町の活性化が図られるのではないかと。 ・ 藤里町がなくなるような気がする。 ・ 藤里町の良い所を伸ばし、赤字はカットするべき。考え方を変える。 ・ 高校を卒業した後、地元就職したくても職場がない。誘致企業でもあれば、いくら若人たちは残れるのではないのでしょうか。また大学や専門学校が終わってもなかなか地元には戻れない状況だと思います。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代の町への定着は容易ではない。秋田県も対策を講じても成果が上がっていない状況を考えればわかります。若い世代に限らず、住民がこの町に対して愛着を持ち、住みたいと思うようにならないと。住民が自ら立ち上がり、この町をどのようにしたいか、積極的に対話して、住民の中からリーダーが出てきて、将来ビジョンを創り上げるような機運が生まれてくることを望ましい。足元を見つめるといいものがある、アイデアを出すことで変わる可能性があるのではないかと。 ・ 若者が定住するには暮らせる収入の仕事が必要だ。仕事・産業の育成・企業支援・担い手・後継者確保。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の内職、アルバイト場所の確保。町ではなく、村でいいかな？マス、イワナ、アユ、山菜、自然と緑で売る。白神山地。にんじゃこ、さんじゃこ。 ・ 粕毛に住んでいます。お試し住宅に町でかなりの経費をかけていますが、使用している方々を時折見かけます。本来お試し住宅とは住んでみて、藤里町を体験してきて、居心地を確認するため、あるいは移住を考えるためのツールと聞いておりました。勉強不足で違った解釈をしているなら申し訳ないですが、使用している方々を見ると、1日か2日何かイベントのあるときとか、大勢でドッときてまるで自炊できる旅館のような使われ方をしているように思えてなりません。そのような使われ方をするための住宅なのでしょうか？個人で使う方も長期滞在する方は珍しいように思います。当然ご近所との付き合いもなく声をかけづらくしています。本来の使い方、目的に合わない方を見極めるべきだと思います。小中一貫校を建築する旨聞いております。学校の経営は学校長。もちろんその前に町教育委員会の理念をはっきりさせるべきだと思います。定住促進を図る絶好のチャンスだと思います。生産性のある若い方々を引き付けるためには、仕事は勿論ですが、この学校に入りたいと思わせる補助や教育の充実等なにか特色を出さなければいけないのでしょうか。今頃勉強している町の取り組みの遅さにがっかりします。思い切って中学まで無償位のところまでもっていてもいいのではないのでしょうか。下地をしっかりと打ち出し、それを可能とする教育者を選定するべきです。 ・ 子ども・若者・年配者に利用しやすいように行事に対象者を限定したのもあってよいのでは。店が少ないので、月に1回とか週に1回かもや堂や開発センター、図書室で何か飲食できるイベントがあれば参加したいと感じている。 ・ 若い人たちが仕事ができるようにしてほしい。 ・ 町では大変よくやっているといます。 ・ 農業と林業の公社を設立して雇用を作る。都会に藤里の産品を売り込む営業マンを置く。営業マンは在京藤里会の会員になってもらう。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町に仕事がないから若い人が出ていく。町に店がないから他の町に行く。何か考えてほしい。 ・ 安定した職場が少ないような気がします。藤里町で生活していくには、経済面が必要になってくると思います。町内で働ける場所があればいいと常に思っています。アルピオンのような企業が入ってきていたら、藤里町の人材もそれに関連した仕事を求めて動いたらどうでしょうか？ ・ 私は音楽が好きなので、楽器の練習スタジオがあればいいなと思います。あんまり大きな音を出す音楽はNGですが、いろんなジャンルの音楽を練習できる小さな部屋で、予約で1時間いくらの料金を取って借りれる場所があればいいですね。最小に最低限の楽器をそろえるのに少しお金がかかりますけど。 ・ 特化戦略による名物化、特産化～活性化につなげる。1.農産物 2.飲食 3.観光 4.加工食品等の切口で何をしたらよいかプロジェクトチームで検討、研修をして一定の方向がけをする。 ・ 小中高の若者のアイデアを募集し、突飛な考えも真摯に考えていくべきだと思う。町民は「次の一手」を打たない町民ばかり。きりたんぼを売る、山菜もただ採っ

て売ることだけの考えの人間ばかり。それを加工し別商品を考えるアイデアを持たない人ばかりが多い。失敗もあるだろうが独自の発想を考える人を育ててほしい。まして「令和は秋田」なのに（郵便番号が018、0185、010）まして菅官房長官が発表したのに秋田を生かしてない。発信地が藤里になるような役場の人間、議員が頭を使ってアイデアをしぼり出してほしい。発想はちょっとしたアイデアで生まれるのだから。

- ・ 若い世代が働きやすい仕事をもっとあるといいと思う。店も少なくなったので、どんどん外に行ってしまうので、道の駅も森のえきもいろんなことをやったらいいと思うお客様をたくさんよべるように...

- ・ 移住定住促進をするとともに、交流人口、関係人口の拡充に取り組んでいただきたい。若者の各種活動が活発になっているので、情報交換の場を設けて町民全体に周知できたら良いと思う。人口減少でも町を維持するための課題を取り上げて対策に取り組んでいただきたい。

- ・ フードカー（コーヒーの提供）は役立っているのか。役場職員の募集について、人物が決めて、わざと募集を出していると聞くことがある。疑問に思っている。

- ・ 仕事場があれば良いと思います。

- ・ 白神山地のガイドとして5月～10月のシーズン6ヶ月は毎日あるわけでないし、オフシーズンの11月～4月の6ヶ月はガイド無く生活はできないので、町で薄給料でもいいので、通年契約職員として働く仕事に就けないだろうか？もちろん藤里町の住民になってもらう条件で。（刈払い、除雪隊、ベンリ屋他）ガイドがある時はガイドを優先してもらおう。何かいい方法はないだろうか。

- ・ 中高年に光を当て、町の中心的な役割を担う人材を育てることも必要と思う。藤里町は若い世代と高齢者の活動が多く、中高年の活動がまったくないと思う。

- ・ 町議会選の時になって余りの高齢化を実感しています。（議員希望者の姿）→望むことはないと言っていました。年寄りに金を使わず、思い切った若い世代のために子育ては藤里町が1番と言われるまちづくりにしてください。それで生活圏をここにおいて町外へ就職しても良いと思います。働きたい、手助けしたいと思う老人が沢山いますので、住宅周辺の草刈りや環境美化等で若い人たちの手が届かないところを支援してやれると思います。農業（米づくり、野菜）の軽作業も人手不足を感じていますので、登録して賃金を出て（安くても）もう少し社協のプラチナバンク風にすると喜ばれると思う。藤琴の神社の参加を女子にも参加させてはと思いました。祭りを考えてみよう。

- ・ この頃若い世代の人たちがまちづくりに参加している様子が目に見える。大変喜ばしいことだと思う。かもや堂の使い方についてですが、飲食（昼食）か喫茶店として時間を限って（11:00～14:00までとか）出店者を募集してはどうでしょうか？そういう使い方はできないですか？

- ・ 若い人の定着は仕事する職場づくり。

- ・ 何かイベント等あれば中高年ばかりが目につく。仕方がないことかもしれないが、若者世代も集まれるようなイベントも考えてカップル誕生につながったりするような機会もあってほしい。だんだん人口が少なくなるのも心配です。

- ・ まちづくりに向けたヒントを見出すことができない。

- ・ まちづくりに向けた意欲をなかなか見出せることができない。
- ・ 定着するには当町にもっと企業育成に力を入れていかなければならない。ホテル経営を黒字化するにはもっと他町の内容を見て考え先に支配人（社長）は他市町より意欲のある方を入れるべきと考える。バイパスが完成するまでにもっと努力をし、企業の召致、また誘致に徹底して力を入れるべきと思われる。町をあげてやる気にならなければならない。もっと力を入れなければ藤里町は将来の見込みが難しいため、若者定着のためにも頑張ってください。藤里はすばらしい町ですので頑張ろう!!
- ・ 私も高齢者です。今は先代が守った畑を何とか守っていますが、先はわかりません。大したことは言えません。自給自足の為ばかりでなく守るためにクワをふるっている人はいます。町民の考えが変わってしまったのです。買った方が安いから、とか、楽することを覚えてえしまったのです。町の財政も苦しくなっている、とは言いつつ何十年やっても生産の上がらないマイタケセンター従事者の仕事ぶり。町民はこういうアンケートに何も期待していません。技術向上して町民に刺激を与えてください。なぜマイタケセンター、ホテルを残さなければいけないのか町民を納得させる説明がありません。町民は無気力にならざるを得ないという人もいます。
- ・ 少子化対策として出産祝い金を導入。例えば第1子、第2子、第3子に5万円、10万円、20万円を出産祝い金として出す。
- ・ 若い人たちが1人でも多くなること期待しています。
- ・ 若い世代に定着してもらいたいが、子供の成長と町の暮らしがついてきていない。高校となると親の送り迎え、また年老のこともあり、どうしても若者に迷惑かけないように生活すると思うと今の自分は病院に通い能代までのバス代がとても痛い。病院までの交通のことも少々考えてもらいたい。
- ・ アイデアとは思わないけど、先ず独身の人に声をかけ、世話をして早く家庭を持ってもらおうと。おせっかいばあちゃん声を出す時代ではないと思うけど、若い人たち、家庭っていいものだと思わせたい、感じさせたい。昔の営林署跡地に町営住宅建設の話を耳にしていいことするね・外部から（町外）の人をたくさん取り入れ藤里に永住してくれるとうれしいね。協力隊として藤里にいる人たちもそのまま住んでもらえる工夫（期限とか家庭を築く）としてくれたらうれしいです。
- ・ 藤里町の魅力を積極的に発信する。
- ・ 若い人が大学、高校を卒業しても就職する職場が少ないので、町へ定着することがむずかしいので、若い人が働く場所があればと思います。
- ・ 町には働く場がない。誘致企業もなければ、町としては産業に力を入れなければと考えます。観光にしても国道で弘前へ通じれば光が見えてきますが...やはりこれという産業を作るべきであり、子供が定住できるようにしなければ町は衰退の道を進むだけだと思います。
- ・ 生活基盤の確保が必要。生活可能な収入確保のために生産活動が必要。

藤里町の人口減少やまちづくりに関するアンケートのお願い

町民のみなさま

町では、平成27年度に「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいます。

本調査は、計画の一層の推進を実現し、取り組みの効果や評価を把握するため、毎年実施しています。なお、今回は次期総合戦略の取り組みの参考とさせていただきたいと思っています。

また?!と思われた方、どうか今年もご協力
いただけますようよろしくお願いいたします。

無作為に対象者を抽出しているため、毎年対象になる方もいらっしゃると思いますが、趣旨をご理解いただき、同封のアンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年2月

藤里町長 佐々木 文明

記

【調査目的】 よりよい藤里町のまちづくりを実現するための「人口ビジョン及び総合戦略」の指標に基づく効果調査を行い、計画の更新・推進を目指す。

【対象者】 藤里町に在住する町民 500人（無作為抽出）

【回収日・回収方法】 2月21日（金）までに返信用封筒に入れてポストに投函ください。

【調査に関する問い合わせ】 藤里町 総務課 企画財政係
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴8番地
TEL：0185-79-2111

以上

3. まちづくりの現状の評価について

質問5 普段のおでかけ環境について満足していますか？ひとつだけ選んでください。

●外出時の移動手段について

①自家用車 ②バス・タクシーなどの公共交通機関 ③その他 ()

●上記で選んだ移動手段について満足していますか？

また、③～⑤を選んだ方は理由もお答えください。

①満足 ②やや満足 ③あまり満足していない ④満足していない ⑤どちらともいえない

→③～⑤を選んだ方の理由：

質問6 普段の生活の中で、人手不足を感じることはありますか？あてはまるものに○をつけてください。

①強く感じる ②まあまあ感じる ③あまり感じない ④全く感じない ⑤分からない

質問7 「①強く感じる、②まあまあ感じる」と回答した方にお聞きします。どの分野で人手不足を感じますか？ 特にあてはまるものを3つまで選んでください。

①地域（集落）の役員や行事を担ってくれる人 ②冠婚葬祭を手伝ってくれる人

③草刈りなどの地域の共同作業 ④農作業をやってくれる人

⑤子どものお守りや見守りをする人 ⑥学校の保護者役員や行事を担ってくれる人

⑦高齢者の見守りや日常生活を支援する人 ⑧災害時に対応してくれる人

⑨何か困った時に、声をかけたら手伝ってくれる人 ⑩冬期間の除雪を手伝ってくれる人

⑪その他 ()

質問8-1 人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思いますか。

①積極的に受け入れたほうが良いと思う。

②積極的ではないが、やむを得ないと思う。

③外部からの受け入れは必要ないと思う。

④その他 ()

質問8-2 また、外部人材や移住者などを受け入れる際に必要なことはなんだと思いますか。あなたのお考えを教えてください。

